

2020年3月31日

大阪府立大学研究推進機構 21世紀科学研究センター大阪検定客員研究員
2019年度研究成果報告書
～大阪検定1級合格者が、大阪の新たな観光魅力を提案～

大阪府立大学研究推進機構

研究テーマ	研究員氏名
データから分析する大阪のラグビー（高校ラグビーを中心として）	萩原 理史
大阪の近代剣道界から学ぶ武道ツーリズム	柴田 洋一
大阪の企業とスポーツ～大阪人を「野球」好きにした企業と企業家たち～	前阪 恵造
実は日本マラソン発祥の地 大阪～1909年マラソン大競走～	高木 昌之
次元を超えて愛される大阪のスポーツ～漫画アニメからeスポーツまで	山村 啓士

データから分析する大阪のラグビー（高校ラグビーを中心として）

萩原 理史

【目的】

・2019年は日本でラグビーW杯が開催され、ラグビーが大いに盛り上がった。その後も、日本人のラグビーに対する関心は依然持続されているようである。さて、ここ大阪でラグビーといえば、まず何が思い浮かぶであろうか。恐らく多くの大阪人にとって、ラグビーといえば、東大阪市の花園ラグビー場で開催される全国大会で毎年のように地元大阪勢が優勝争いをしている「高校ラグビー」ではないだろうか。さて、小学生の頃からのラグビーファンである私にとって、高校野球といえば「甲子園」、高校ラグビーといえば「花園」であり、大阪勢はずっと強豪として活躍してきた印象があるが、その印象は事実なのであろうか。この点について、漠然とした感覚ではなく、データでもって分析をしてみたい。次に、大阪勢が強豪となった要因は何であろうか。大阪は3校が全国大会に出場できる。また、大阪はラグビー部がある中学校が多く、高校からラグビーを始める選手が多い他地域に比べ、アドバンテージがあるのが要因だと言われている。確かに、それも事実であろう。しかし、大阪の高校生のラグビーにかけるひたむきな努力や創意工夫をそのような安直な分析で済ましてよいのだろうか。ラグビーを他のスポーツと比較した際の特徴、「頻繁なルール改正によるプレイスタイルへの影響」という点に着目して考察してみたい。

【内容】

・1918年に始まった全国高校ラグビー大会の会場は、鉄道会社との関係もあり何度も変更されてきた。1929年に花園ラグビー場が開設されたが、その花園ラグビー場を会場として同時期に開催されていた全国高専大会が1948年に終了した後も、結局1963年まで会場とはならなかった。分析の結果、高校サッカー大会と共同開催していたことが主たる原因であろうと結論付けることができた。ついで、大阪勢が強豪として定着するようになるのは、データ分析の結果、1990年代以降であり、それまではむしろ東高西低の時代であったことがわかった。また、大阪勢が近年優勝候補の常連として定着した要因については、ラグビー特有の頻繁なルール改正によりプレイスタイルの変更を余儀なくされるという状況を、中学ラグビーが盛んで選手層が厚いという優位性に加え、大阪人の特性でもある、コミュニケーション能力や転換期に対応する適応力等で克服することができたと結論付けた。

【結果（今後の考察を含む）】

・高校ラグビーの聖地である花園ラグビー場が全国大会の会場になるまでには、紆余曲折があった。また、現在のような、西高東低の勢力図が定着したのも、意外と最近のことであることもわかった。我々が漠然と感覚で思っていることも、データで分析すると思い込みすぎないことがわかる。そして、大阪の高校が毎年優勝争いをする程の強豪として定着したことも、分析することによって、相応の要因があることがわかった。W杯の日本再開催が計画されているが、愛着や感覚でなく、冷静で合理的な分析に基づいて大阪にとって最適な対応をしていただくことを期待したい。

データから分析する大阪のラグビー (高校ラグビーを中心として)



大阪府立大学
研究推進機構
大阪検定
客員研究員
萩原 理史

写真提供：近畿グリーンホールディングス(株)

①-1 全国高校ラグビー大会の会場の変遷

回	期間	会場	開設者(親社名)
第1～5回	1918～1922年	豊中運動場	阪急電鉄
第6～7回	1923～1924年	宝塚運動場	阪急電鉄
第8～10回	1925～1928年	甲子園球場	阪神電鉄
第11～25回 (第24回)	1929～1943年 1942年	甲子園南運動場 福興春日原球場	阪神電鉄 西日本鉄道
第26～27回	1947～1948年	西宮球場	阪急電鉄
第28回	1949年	東京ラグビー場	日本ラグビー協会
第29～41回	1950～1982年	西宮球場	阪急電鉄
第42回以降	1983年～	花園ラグビー場	近畿日本鉄道

第1回は日本フットボール優勝大会として、ラグビーとサッカーの2部門で開催される。(第41回まで共同開催)

1929年 花園ラグビー場が開設

1930年 全国高専ラグビー大会が花園ラグビー場で開催

第42回大会から花園ラグビー場で開催
これまで、花園ラグビー場が会場にならなかったのはなぜ?

※第24回大会は戦時中のため、関西大会と九州大会の分割開催。
※第28回大会のみ東京(関西以外)で開催。

①-2 花園ラグビー場の開設

1928年	2月12日	秩父宮殿下御覧のもと、甲子園球場で第1回東西対抗が実施される。野球場でラグビーをしたことに怒り、阪神電鉄が甲子園南運動場を新設。
	12月5日	秩父宮殿下が、福原伸吉参拝の際に、大軌鉄道の車内で陣社屋田(おいで)専断に「ラグビー専用グラウンドを作っては止らぬお言葉あり。(東大阪市中では10月とある。)
	12月10日	大軌鉄道の役員会で球場一帯で競馬場跡地にグラウンド建設を決定。
1929年	3月	英園トウイッケナムラグビー場をモデルに、ラグビー場建設に着手。
	11月	東洋初のラグビー専用グラウンドとして花園ラグビー場が誕生。
	11月22日	花園ラグビー場グラウンド開き。全日本OB選抜対全日本学生選抜の試合が、秩父宮殿下・紀原下臨席のもとで実施される。
1930年	1月	花園ラグビー場が第6回全国高専ラグビー大会の会場となる。

ラグビー史における歴史的事実の混同

- 秩父宮殿下のラグビー場開設のお言葉が、2月12日の際の際と混同されている。
- 南甲子園運動場と甲子園南運動場の呼称の不統一(ラグビー関係者は南甲子園運動場を使用)。
- 花園ラグビー場の開設日が、12月21日や12月22日と混同されている。

①-3 花園ラグビー場が会場にならなかった理由は?

花園ラグビー場の「当時の正式名称は『日本蹴球協会並びに西部ラグビー蹴球協会専属花園ラグビー場』であった。…戦前は協会指定の大きな試合だけが行われた。全国高校ラグビーの舞台になつたのは戦後で、西宮球場の閉鎖に伴っての変更であった。」

出典：『なにわのスポーツ物語』(2015年6月) なにわのスポーツ研究会編

国際試合などの大きな試合以外でも使用

全国高専ラグビー大会(1月開催)の会場として使用(1930年第5回大会～1948年第20回大会)

1929年11月花園ラグビー場開設により1930年1月から使用

1949年第21回は東京ラグビー場で開催(日本ラグビー協会主催・東西隔年開催予定)

1950年学生改革により、全国地区対抗大会(瑞穂ラグビー場)へと発展的解消

近畿中学選抜大会(4月開催)の会場となる。(1936～41年 1947年は福原で開催・7回で終了)

全国中学大会の大阪・奈良・和歌山地区予選で使用(遅くとも1933年第16回大会予選で使用確認)

(実は、本大会より早く予選大会で花園ラグビー場が使用されていた。)

⇒同月に実施していた全国高専大会の終了により、高校大会の会場にならなかったのはなぜ?

①-4 元祖「花園」全国高専ラグビー大会とは

◎前編 全国高専専門学校ラグビーフットボール大会(日本ラグビーフットボール大会高専専門学校部)

回	開催年	会場	主催など	備考
第1回	1920年	豊中運動場	日本フットボール大会において大学・高専・中学部から分選。甲子園チームなし。	
第4～6回	1921～23年	豊中運動場	大阪毎日新聞主催	第4回大会に大阪高専が出場。
第6～7回	1923～24年	阪急運動場		
第8回	1925年	甲子園球場		

◎全国高専専門学校ラグビーフットボール大会

回	開催年	会場	主催など	備考
第1～4回	1926～29年	東大グラウンド	東大ラグビー部主催	第4回大会に大阪高専が出場。
第5～17回	1930～42年	花園ラグビー場	花園ラグビー協会主催、東大ラグビー協会主催、大阪毎日新聞主催	(第4回大会の中日本ラグビー協会主催。)
(第17回)	1948年	(春日原運動場)		花園大会と九州大会に分開催。
第18回	1948年	花園ラグビー場	大日本蹴球協会高専部主催、大阪毎日新聞	
第19～20回	1947～48年	花園ラグビー場	日本ラグビー協会主催、花園ラグビー協会主催、毎日新聞主催	
第21回	1948年	東京ラグビー場	日本ラグビー協会主催	毎日新聞社が主催から離れた。甲子園球場にも移った。

※「関西ラグビーフットボール協会史」(1983年)参照

後継大会として、全国地区対抗大学大会、全国高専専門学校大会(工業高専中心)があるが、学校の性格が異なるため、最近発行のラグビー史の著書からは、省略されることが多く、記憶からだけでなく、記録からも忘れられる恐れがある。

※高専大会はラグビーとサッカーは別会場で開催。

①-5 全国高校サッカー大会との共催の影響

回	年	会場	備考
(第1回)	1917年	豊中(第1回)	豊中、新本商店(大阪市西区)の店主新本貞一(元東大ラグビー部主将)が大阪毎日新聞社専属運動部長の西尾守方(専大野球部出身)にラグビー大会の開催を依頼。
第1回	1918年	大阪毎日新聞社主催で冬の運動競技として、『日本フットボール優勝大会(ラグビーとサッカーの2部門)』が豊中運動場で開催される。(ワセダ・アサヒがサッカークラブを創設)	
第8回	1926年	ラグビー大会は甲子園球場の外野を使用。サッカー大会は福原球場・甲子園中グラウンドで実施。	
第9回	1928年	全国中学校選抜大会と同時開催。サッカー大会が全国大会(1～4回は関西の学校のみ参加。各場には大会あり。大日本蹴球協会の野球場等が買収したため、毎日新聞社主催大会が支持を拡大して。)	
第10回	1934年	サッカー大会が毎日新聞社主催のものに一本化される。	
第20回	1947年	甲子園南運動場が福原に転用(併用)されたため、会場が西宮球場に移る。	
第41回	1983年	西宮球場が、各種高専選抜大会の開催で埋められたため、ラグビー大会の会場は花園ラグビー場へ、サッカー大会の会場は花園球場へ、両会場が併用される。	
第44回	1988年	サッカー大会の毎日新聞主催が終了(日本蹴球協会と高専連が年の高校選手権を夏の高校野球(インターハイ)に編み入れたことにより)。参加者は16校に減少。	
第50回	1971年	サッカー大会の安全が長年懸念され、(阪神新聞社・日本テレビの主催)。	
第55回	1978年	サッカー大会の会場が花園球場へ移る。(阪神新聞社・日本テレビの主催)。	

全国高校サッカー大会との共同開催により、西宮球場で開催され続けたと推測される。

サッカーとラグビーが同じ競技場であることによる運営コストの節約(大会運営役員・毎日新聞社等の負担軽減)

選手宿舍の確保の利便性(西宮市…春・夏の高校野球 冬のラグビー・サッカー)

ラグビー優先の日程とグラウンドの割当(第1～3グラウンド、野球場)

※全国高校サッカー大会史は、非常に興味深い。文部省・高体連・日本蹴球協会の思惑が絡む。

①-6 全国高校ラグビー大会の東京開催

1949年の第28回は東京ラグビー場（現秩父宮ラグビー場）で開催
 学制改革により「第1回全国高校大会」となる。→ 後に第28回大会に戻る。
 日本ラグビー協会の単独主催 → 第29回より毎日新聞社が後に復帰
 （毎日新聞社が諸般の事情で主催から手を引く「80回記念誌」より）
 東京ラグビー場（1947年11月に完成） → 第29回は西宮球場に戻る。
東西で隔年開催の予定 → 東京開催を断念・関西開催で固定

運営面・営業面で失敗の理由
 大晦日から降り続いた氷雨が客足を止めた。東京は高校ラグビーの関心が薄かった。
 関西ラグビー協会による大会の運営体制の足並みがそろわなかった。
 毎日新聞社と袂を分かったため、事前のPRがほとんどなかった。
 「高校大会はやはり、伝統ある関西で開催すべき」と、東京開催をあきらめた。
 （『激闘高校ラグビー』1991年 村上清司（毎日新聞記者）⇒ **本当の理由とは？**

①-7 全国高校大会の東京開催が断念された理由とは？

1949年の第28回は東京ラグビー場（現秩父宮ラグビー場）で開催 → 東西で隔年開催の予定
 学制改革により「第1回全国高校大会」として開催。日本ラグビー協会が単独で主催。
 運営面・営業面で失敗に終わり、翌年から西宮球場に戻って開催。東京開催を断念。（サッカー大会は
 1976年より関東へ）

●高校ラグビー3大会の会場およびグラウンドの面積

大会名	会場	府県名	グラウンド	出場校数	期間	試合数
全国高校大会	花園ラグビー場	大阪府	メイン1面 サブ2面 陸上1面	51	12月27日～1月7日	50
全国高校選抜大会	熊谷ラグビー場	埼玉県	メイン1面 サブ2面 陸上1面	32	2月29日～4月7日	58
全国7人制大会(アシックスカップ)	菅平高原サニアパーク	長野県	メイン1面 サブ4面 陸上1面	487	7月21日～7月23日	132

東京ラグビー場（秩父宮ラグビー場）はメイングラウンドの1面のみであり、冬休みの短期間に多くの試合を実施するのは困難。（出場校数増による試合数増に対応できない。 ※全国高校野球大会では過密日程が問題になっている。）
 全国高校7人制大会（アシックスカップ）の第3回・第4回大会や全国高校サッカー大会のように会場を分散させて実施する場合、大会運営の複雑化、選手の移動など問題点が多い。
 西宮球場・花園ラグビー場はグラウンドが3面使用できたことが、出場校数増による試合数増に対応できた。（『西宮ラグビーフットボール協会史』） → **東西隔年開催から東京開催へと繋がる東京一極集中化を阻止できた。**

①-8 大阪のラグビーと新聞社・鉄道会社の関係

●昭和4（1929）年の西部協会大阪支部加盟チーム（学校除く）
 大同電力、大鉄局、日本電力、大軌電車、阪神電車、京阪電車、阪急電車、大阪毎日新聞社（関西商業団チーム第1号）、大阪朝日新聞社、大丸、大阪市役所、関大OB、大阪商大OB、関西ラグビークラブ、オールコムテ・ラグビークラブ
 ・阪急電鉄…豊中運動場（1～5回）、宝塚運動場（6～7回）、西宮球場（26～41回）
 ・阪神電鉄…甲子園球場（8～10回）、甲子園南運動場（11～25回）
 ・近 鉄…花園ラグビー場（42～94 2015年に東大阪市に所有権を譲渡）
 ・京阪電鉄…寝屋川グラウンド（1937年大阪実業団リーグ）
 （市内吊りポスター・駅のポスター・選手に優待乗車券・特別電車「関西ラグビーフットボール協会史」P39 小泉五郎）
 ・毎日新聞…全国高校大会（1918～48 1950～） 全国高専大会（1920～1948）
 ・朝日新聞…全国社会人大会（1949～2003）
 （各新聞社にラグビー部OBの記者「関西ラグビーフットボール協会史」P39 小泉五郎）
 ※参考（東京）
 ・明治神宮外苑競技場（1924～1957・明治神宮） → 国立競技場（1958～）
 ・秩父宮（東京）ラグビー場（1947～ 日本ラグビー協会→1962年国立競技場に移管）
 ・読売新聞…全国大学選手権後援
 → **鉄道会社・新聞社との関係が強い関西とアマチュアリズム重視の東京**

②-1 東高西低（東北・東京）から西高東低（関西・九州）へ

	1918～1920年度	1921～1923年度	1924～1926年度	1927～1929年度	1930～1932年度	1933～1935年度	1936～1938年度	1939～1941年度	1942～1944年度	1945～1947年度	1948～1950年度	1951～1953年度	1954～1956年度	1957～1959年度	1960～1962年度	1963～1965年度	1966～1968年度	1969～1971年度	1972～1974年度	1975～1977年度	1978～1980年度	1981～1983年度	1984～1986年度	1987～1989年度	1990～1992年度	1993～1995年度	1996～1998年度	1999～2001年度	2002～2004年度	2005～2007年度	2008～2010年度	2011～2013年度	2014～2016年度	計	
北海道・東北	0	2	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18		
(秋田県)	0	2	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18		
関東	0	2	1	0	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	29		
(東京都)	1	0	0	0	2	3	0	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16		
(千葉県)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部・北陸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
近畿	11	1	3	0	2	3	4	6	7	6	4	6	7	6	4	6	7	6	4	6	7	6	4	6	7	6	4	6	7	6	4	6	7	42	
(大阪府)	11	3	3	0	3	4	2	4	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	3	5	39
(京都府)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(滋賀県)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(大津府)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(和歌山県)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(福岡県)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外地(朝鮮・韓国・台湾)	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

戦前は京都勢、外地勢が強かったが、戦後になると北海道・東北勢（秋田工）、次いで関東勢（保善・目黒・国学院久我山）が強くなり、東高西低時代が続く。
 現在の関西勢・九州勢が強い西高東低時代が始まるのは、平成以降になってからである。

②-2 高校日本代表における大阪の高校出身者

年度	1980～70年度	1970～75年度	1976～79年度	1980～84年度	1985～89年度	1990～94年度	1995～99年度	2000～04年度	2005～09年度	2010～14年度	2015～19年度	計
選出人数	1	1	4	6	5	6	5	5	5	5	3	44
大阪府	0	4	10	16	32	29	29	40	29	22	18	335
(割合)	0.0%	16.7%	13.2%	26.6%	23.2%	22.7%	20.0%	16.8%	16.8%	23.1%	20.9%	
秋田県	2	3	5	12	8	6	4	4	3	2	2	47
東京都	0	0	22	14	10	20	10	4	10	13	3	117
神奈川県	0	0	4	7	3	6	5	2	7	9	11	64
京都市府	0	0	13	14	9	4	10	13	8	10	4	84
滋賀県	3	0	3	6	10	5	5	9	2	6	1	61
福岡県	0	0	0	0	0	1	6	0	3	2	3	14
福岡県	0	0	0	0	2	3	4	8	8	20	26	86
全国計	23	25	102	121	125	128	130	130	131	131	78	1118
選手権(割合)	0	0	1	1	1	2	2	4	2	3	2	18
秋田県	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
東京都	0	3	3	2	1	0	1	0	0	0	0	11
大阪府	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	4
福岡県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

大阪勢が強くなるにつれて、高校日本代表に選出される選手数は増加しているのがわかる。
 ただ、最近では高校でも外国人留学生が増加しており、留学生選手の代表選出により、大阪の高校出身者の代表選出数にも影響を及ぼしている。

②-3 高校日本代表主将における大阪の高校出身者

年度	1980～70年度	1970～75年度	1976～79年度	1980～84年度	1985～89年度	1990～94年度	1995～99年度	2000～04年度	2005～09年度	2010～14年度	2015～19年度	計
選出人数	1	1	4	6	5	5	5	5	5	5	3	44
主将	0	0	0	1	0	3	4	3	3	2	1	17
(割合)	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%	80.0%	60.0%	60.0%	40.0%	33.3%	38.6%
福岡県	0	0	1	0	1	0	0	3	1	1	2	9
代表選手	0	4	16	16	32	29	29	40	26	22	18	232
(割合)	0.0%	16.0%	16.7%	13.2%	25.6%	23.2%	22.7%	30.8%	20.0%	16.8%	23.1%	20.9%

大阪の高校出身者が高校日本代表の主将に選出される割合は1990年代以降非常に高いことがわかる。
 ワールドカップ開催以降、ルールの頻繁な改正により、ラグビー経験が長く、ラグビーの知識・理解度が高い大阪出身者が主将に選出される傾向が高くなっていることが推察される。
 また、ワールドカップ開催以降は、審判で背中を引くタイプのキャプテン（古きよきラグビー部主将像？）ではなく、コミュニケーション能力やリーダーシップ的な役割、外部への情報発信力などがより重要になってきたことも大阪出身者が主将に選出されることに繋がっているのではないかと推察される。

② - 4 熱血教師（監督）の時代

監督名	高校名	所属府県	出身校	出身大	監督
中村謙	國學院久我山	東京都	國學院久我山	日体大	高校日本代表監督
松本直樹	目黒	東京都	目黒	日体大	
神尾隆尚	大塚大	東京都	府中	日体大	
松澤久久	常盤台工	群馬県	日川	日体大	
藤澤謙	藤野工	埼玉県	藤野西	日体大	
山田謙二	西園南	東京都	工業	日体大	高校日本代表監督
藤田聖之	八幡工	東京都	新習	日体大	高校日本代表監督
山口良地	伏見工	京都府	滝野森林	日体大	高校日本代表監督
小嶋博	佐賀工	佐賀県	滝谷	日体大	
廣川博司	大塚工大	大阪府	藤原川	天理大	高校日本代表監督
川村幸治	帝京工	大阪府	帝光学園	天理大	高校日本代表監督
松浦敏和	帝光学園	大阪府	帝光学園	天理大	
田中寛巳	天理	奈良県	天理	天理大	高校日本代表監督

日本体育大学ラグビー部総幹永寿監督が育てた日体大OBたちが、日本全国の高校の教師（監督）として赴任し、高校ラグビーの発展に貢献した。

一方、大阪の高校ラグビーを代表する荒川・川村・記原監督は、天理大学出身であり、日体大ラグビー部と距離をおいていたことが、大阪の高校ラグビーがルール改正等に伴うラグビーの転換期（熱血指導から合理的指導へ）に適応できた要因の一つになったのではないかと推測される。

③ - 1 ラグビーの主なルール改正

年	国	ルール改正の内容
1966年	44	ラインアウト、スクラム、ラックのオフサイドラインが下げられる。一戦一方一変（バックスの攻撃が激化傾向）
1967年	46	ダイレクタタッチは自陣22mライン内側からというローカルルールを採用。→国際ルールに採用
1970年	46	得点変更（トライ4点、ゴールなし、ペナルティゴール3点）
1981年	61	ゴールライン4m以内のスクラム禁止。
1982年	65	スクラムは最大9人までとされる（前年に自陣側のゴール前10人スクラム）
	65	6人プッシュ一戦制のため、監督はスタンドから見守ることとなる。
1982年	72	トライ4点から5点になる。
		キックオフのスピード化、PGからのタッチキックが取り出し難い側のホールに設置。
1982年	73	スクラムを1.5m以上押し出すことを禁止。
1982年	73	入替可能な選手（換替交代）が認められる（交代可能な8人中9人まで）
2000年	83	フリーキック、ペナルティキックを少なくする方針。→フリーキック（原則1回）→1回前後の罰キック（フリーキック）→両者の罰キック（フリーキック）
1986年	76	ラインアウトのリボーンキックが認められる。→ゴール前PKでタッチに際し出し、ラインアウトモールでトライ。
1986年	76	ハーフタイム以外の入替（換替交代）が認められる。→選手層の厚さが重要
2000年	83	スクラムを立直さずでも前方のプレイヤーがボールを取り出すことが不可。→通過攻撃が増加。（奥進に効果がなかった。）
2000年	83	フリーキック、ペナルティキックを少なくする方針。→フリーキック（原則1回）→1回前後の罰キック（フリーキック）→両者の罰キック（フリーキック）
2000年	86	スクラムのオフサイドラインがスクラムの最後尾の足の位置から6.5m後ろへ。

※ラグビーはルール改正が頻りに実施されるスポーツであり、ルール改正により戦いが大きく変更することがしばしば起きているスポーツである。特に、ワールドカップ開催（1987年）以降は、「見えて来ないラグビー」を志向し、ルール改正がより頻りに実施されることになった。

③ - 2ルール改正による東北・東京勢の後退と大阪勢の躍進 1

- ルール改正によるラグビーの方向性の変更
- ①FW中心の力のラグビーからFW・BK一体の展開ラグビー重視へ
 - ・キッキングラグビーからトライを獲りに行くラグビーへ
- ②試合中の中断時間が減少し、インプレイの時間が増加
 - ・攻撃側が有利になり、攻撃をミスなく継続できるラグビーへ
 - ・自陣では反則せずに粘り強くディフェンスできるラグビーへ
- ③監督の指示よりキャプテンを中心とした選手の自主性重視へ
 - ・型（パターン）のラグビーから選手の判断力、適応力、コミュニケーション能力重視へ
- ④選手交替枠が拡大されることにより、選手層の厚さがより重要になる。

- レフリーの地域間格差の影響
- ①2000年のルール改正が、全国的に浸透するのに時間がかかったのではないかと推測される。（全国的な研修・レフリーキャパの充実）※「プレーの変化を追って」の報告
- ②2003年のレフリーの「笛を吹く回数を少なくする」という方針の実施→選手のとまどい。

③ - 3ルール改正による東北・東京勢の後退と大阪勢の躍進 2

- 大阪勢が躍進した要因
- ①出場校が3校と多い。（上位に進出する可能性が非常に高く有利。）
- ②中学にラグビー部がある学校が多く、ラグビー経験が他県より長い。
 - ・ … それだけが理由？
- 頻りに実施されるルール改正への適応力の高さが要因と推測される。
 - 啓光学園の4連覇（2001～2004年度）はルール改正等による混乱期に達成
 - 東海大仰星高校土井監督…著書『もっとも新しいラグビーの教科書1・2』
 - 選手交替枠の拡大により選手層が厚いチームが圧倒的に有利になった。
 - コミュニケーション能力の高さ→高校ジャパンのキャプテンに選出される割合の高さ

参考文献
 『プレーの変化を追って』（全国高校ラグビー大会パンフレット）
 『ラグビーをひととく』李淳船 2016年 集英社新書
 『もの言いかた西東』小林隆・澤村美幸 2014年 岩波新書

④ - 1 ワールドカップと大阪の高校出身の選手

国	開催年	開催国	監督	主将	選手数	大阪高校出身者数	割合(金)	割合(外)
第1回	1987	ニュージーランド・オーストラリア	高橋寛典	西谷謙二	26	3	11.5%	12.5%
第2回	1991	イングランド・スコットランド・ウェールズ・アイルランド・フランス	高橋広樹	平尾誠二	28	5	17.9%	20.8%
第3回	1995	ニュージーランド・オーストラリア	小島謙二	松川文	26	7	26.9%	31.8%
第4回	1999	ニュージーランド・オーストラリア・スコットランド・アイルランド	小島謙二	松川文	30	7	23.3%	29.2%
第5回	2003	ニュージーランド・オーストラリア	高井善吉	西内拓郎	31	5	16.1%	18.5%
第6回	2007	フランス・ウェールズ・スコットランド	高井善吉	西内拓郎	38	6	15.8%	23.1%
第7回	2011	ニュージーランド・オーストラリア	高井善吉	西内拓郎	34	5	14.7%	20.8%
第8回	2015	イングランド	ジェイミー・ジョセフ	マイケル・ワグネル	31	4	12.9%	18.2%
第9回	2019	日本	ジェイミー・ジョセフ	マイケル・ワグネル	31	3	9.7%	20.0%

外国出身の選手の増加が大阪の高校出身の代表選手の減少に影響しているといえる。

●主な大阪の高校出身の日本代表選手
 元木由記雄（W杯に4回選出）・大畑大介（テストマッチのトライ数世界一・世界ラグビーの殿堂入り）・大西将太郎（対カナダ戦の同点ゴール）・堀江翔太（FWで日本人初のスーパーラグビーの選手）

④ - 2 ラグビーワールドカップに対する大阪の反省点

開催地名	所在地	収容人員	主要ゲーム
1 大阪国際総合競技場	神奈川県横浜	72,327人	ニュージーランド対イングランド、フランス対スコットランド、準決勝1・2、決勝
2 小山総合運動公園エコスタジアム	静岡県浜松市	50,889人	ニュージーランド対スコットランド、準決勝1・2、決勝
3 東京スタジアム	東京都文京区	49,870人	日本対ニュージーランド、フランス対スコットランド、オーストラリア対ウェールズ、イングランド対ウェールズ、準決勝2・4、3位決定戦
4 長良川競技場	大阪府大阪市	47,000人	
5 豊田スタジアム	愛知県豊田市	45,000人	ニュージーランド対スコットランド
6 札幌ドーム	北海道札幌市	41,410人	
6 大分県立総合体育館	大分県大分市	40,000人	ニュージーランド対スコットランド
7 熊本県民総合体育館	熊本県熊本市	30,225人	
8 神戸市中央体育館	兵庫県神戸市	30,132人	
9 徳島県立総合体育館	徳島県徳島市	25,800人	
10 花園ラグビー場	大阪府東大阪市	24,000人	
11 茨城県立総合体育館	茨城県水戸市	21,682人	
12 徳島県立総合体育館	徳島県徳島市	18,934人	

大阪が、日本戦・決勝トーナメント戦・予選リーグのタイア1回との対戦の会場に選ばれた理由

花園ラグビー場の収容人員（W杯の費用は極めて大きく、入場料収入は重要。テレビ放映権料・スポンサー協賛金はWR（IRB）の収入、チケット売上がW杯日本大会組織委員会の収入となる。）が最大の要因。

大阪市と東大阪市が開催地に立候補し、東大阪市が開催地となった（愛着より冷静で合理的な判断が必要）。当初予定の新しい競技場（東京）が使用できなくなったことによる絶好のチャンスで、大阪は選んだ。

「大阪の近代剣道界から学ぶ武道ツーリズム」

柴田洋一

【目的】(1)大阪の近代剣道界が、当時、人々の人気を博した魅力を史料から再発見する。(2)それらをもとに、旧来の興行とは一線を画し、国内外の観光客のニーズに対応できる、本格的な「武道ツーリズム」についての提言を大阪から発信する。

【内容】1 問題意識：日本の現代武道は、日本文化としての伝統的側面と、スポーツとして心身を鍛える教育的側面とをあわせもつ融合的存在ととらえることができる。本来、武道がもつ魅力とは、心身の鍛錬を通じて、己れの弱さに打ち勝つプロセスにあり、その役割は人々の平和のために役立つ人材の育成にある。

政府スポーツ庁は2016年より「スポーツ文化ツーリズム」を推進する上で、その需要拡大戦略において、スポーツと日本の文化芸術資源を融合させて「武道ツーリズム」を設定した。とくに武道（柔道・空手・剣道・合気道など）と大相撲は、日本発祥・特有の「みる・するスポーツ」として、世界の関心が高く、国内及び訪日旅行客の誘致に大いに強みを期待できる。武道は海外でも愛好家が多く、日本文化への関心が高い層に対しても、発祥地である日本への関心や訪日意欲を喚起できるからである。課題は受入体制やコンテンツの整備・洗練で、既に沖縄県、福島・群馬・茨城3県、山形県で取り組まれている。

2 進め方：(1)歴史的研究では、明治期以降の大阪において、①撃剣興行の盛衰、②警察剣道の隆盛、③大阪武徳殿等での稽古について研究を深める。(2)「武道ツーリズム」の提言では、①平日昼間の時間帯に空きのある施設や防具を活用して、観光客向けに剣道体験事業を創出する。②外国人留学生と連携して、大阪で開催される剣道大会の紹介を外国語で発信し、体験コーナーを設けて多くの観客を誘致する。③大阪の「武道ツーリズム」の核として、国際大会も誘致できる「大阪武道センター」を構想する。

【結果】(1)①大阪の撃剣興行についての史料、②大阪府警での稽古や大会等の記録、③大阪武徳殿の設計図や稽古等の記録を再発見し、大阪が撃剣見世物の発祥地であり、鏡心明智流が中心と分かった。(2)については「剣道プラットフォーム」の構想までであった。

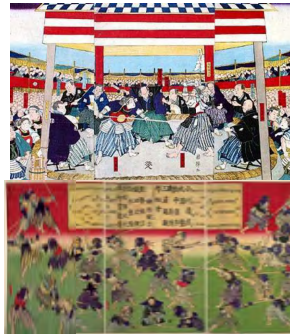
<おもな参考文献>『明治見世物興行年表』(blog.livedoor.jp / misemono / archives / cat_50046848) (2014/02/14 作成)、大塚忠義 1995「撃剣興行の登場と衰退」、『日本剣道の歴史』窓社、小佐野淳 2006「講武所剣術師範 鏡心明智流 (桃井春蔵直正)」、『概説・武芸者』新紀元社、中井憲治 2012「警視流立居合に関する研究」、『仙台大学紀要』44(1)、中嶋哲也 2017「第1章 撃剣興行と警察武術(第1部<術から道へ>—嘉納治五郎と講道館柔道の成立)」、『近代日本の武道論—<武道のスポーツ化>問題の誕生』、国書刊行会、剣道時代編集部 2005『私の剣道修行』第一巻 体育とスポーツ社、大阪市立中央図書館『朝日新聞聞蔵Ⅱビジュアル』、大林組 1961『大林組70年略史』、片岡茂範士『大阪府警察のあらまし』、『明治2・3年の府職員録浪華隊名簿』(大阪府立中之島図書館)、山中善三郎「明治26年日本武術名鑑」(伊丹市立博物館)、小西家『撃剣興行番付』(伊丹市立博物館)、小林義孝(2019)「撰河泉の陣屋」『大阪春秋 No175 大阪城の研究』新風書房、剣道プロジェクト石塚一輝.com(<https://ishizukakazuki.com/category/kendo/>) (2019.10.20)

大阪の近代剣道界から 学ぶ武道ツーリズム



大阪府立大学 大阪検定客員研究員
柴田洋一

最初の撃剣興行は
通説では 東京で1873(明治6)年4月26日
興行主は榊原健吉(直心影流)



千葉撃剣会(北辰一刀流)では
女性も活躍



出典：blog.livedoor.jp



【新発見】

ところが 撃剣の見世物は1月から大阪で
実は！ 難波新地にて弓馬鎗剣の試合
松島にて鎗剣長刀花棒の見世物

「花持(編者註：棒の間違いか)ツカイ 是ハ鎗・刀・くさり鎌など仕合ニ
して、けんしゆつの通りニして、本ぬき身ニして仕合、元とりを切しをまけと
すなり*1」

「難波新地にて弓馬鎗剣試合の看板を掲げて其修練を盡せり。

(小太刀)加藤幸助(十手)同藤九郎(長刀)藤三郎(鎗)新九郎

(長刀)渡辺庄三郎(鎖鎌)根笹重助(小太刀)同伊三郎

(十手)犬飼九郎左衛門(棒)森治平(竹刀)浅野文四郎、是ハ尾張人のよし。

松島には鎗剣長刀花棒の見世物ありと。*2」

(*1『近來年代記』/*2『日要新聞』5月74号)『日本初期新聞全集』52巻・346頁より転記。
引用『明治見世物興行年表』

blog.livedoor.jp / misemono / archives / cat_50046848 (2014/02/14作成)

幕末・維新 剣豪・剣客の多くが 大阪に集結



右 心形刀流
伊庭八郎

下 天然理心流
土方歳三

浪花隊

上 鏡心明智流 4代目
桃井春蔵直正

左 師範代の
秋山多吉郎

出典 雑誌『剣道日本』

<平成29年度 大阪検定客員研究員発表>「発見！幕末・明治 剣豪たちの足跡」より

そして、鏡心明智流が 大阪の撃剣興行の中心だ

1879(明治12)年10月 西南戦争で勲七等の西田與三郎と馬場伊太郎
師匠の桃井春蔵直正を招いて
野試合形式で、2万人を超える見物客

1880(明治14)年から 秋山多吉郎が参加
火災盗賊等防止のための警護業も開始

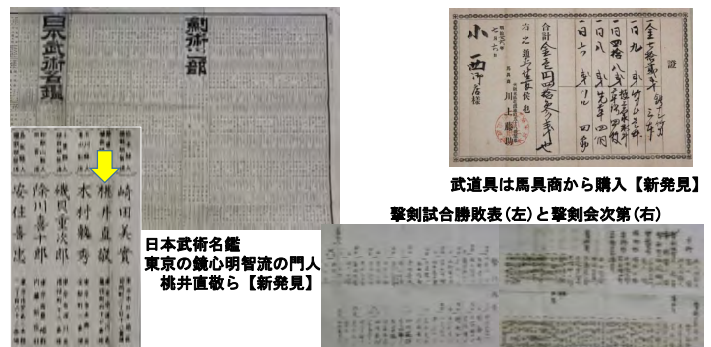
1883(明治16)年5月 黒谷左六郎も参加
高知県から馬淵桃太郎一座も来阪
高橋超太郎 対 川崎善三郎(両者無外流の一戦)
出典：朝日新聞「開蔵Ⅱピジュアル」



黒谷左六郎(明治36年)
【新発見の肖像写真】(個人蔵)

撃剣関係の史料

1893(明治26)年 伊丹(旧摂津国)の小西家(修武館)



武道具は馬具商から購入【新発見】

撃剣試合勝敗表(左)と撃剣会次第(右)

日本武術名鑑
東京の鏡心明智流の門人
桃井直敬ら【新発見】

伊丹市立博物館収蔵

明治時代の稽古風景

竹刀で複数の相手と対戦、多彩な技(折敷き胴や左右の片手面)
庭に素足で鎖鎌とも対戦、法螺貝に太鼓、素振り棒を用いている



<参考映像>

The first kendo motion picture - from 1897(明治30)年
<https://youtu.be/WN9SDF05nX0>

天王寺公園にできた、武徳殿の稽古場

戦前の剣道界は大日本武徳会大阪支部**大阪武徳殿**に統合

設計 松本真象
 式様 純和風の木造建築、瓦葺きの二階入母屋造
 屋根の上層には千鳥破風、下層には唐破風
 起工 1910(明治43)年7月
 竣工 1911(明治44)年11月
 焼失 1945(昭和20)年3月13日深夜



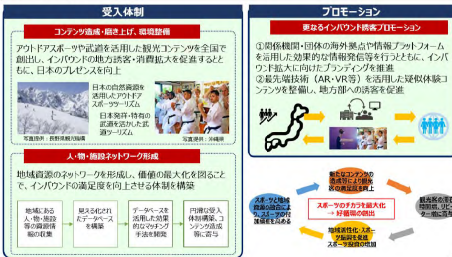
大阪パノラマ地図(大正13年)

写真 大日本武徳会 大阪武徳殿
 『大林組70年略史』(1961)より
 提供 大林組歴史館
 協力 荒田智康氏(総務部社史課)

武道ツーリズムを政府スポーツ庁が推進

「スポーツ資源」を活用したインバウンド拡大の環境整備 (新 規 費) 令和2年度概算要求額: 470,000千円

各地域が誇る地域資源とスポーツを掛け合わせたコンテンツの造成や履き上げ、環境整備等を行うとともに、先進的に武道ツーリズムを推進する団体の取組をモデル的に調査・研究・分析し、横展開を図る。また、人・物・施設等の資源情報データベースを構築し、マッチング手法を開発するとともに、新たなプロモーション等を実施する。



外国人観光客が日本で経験してみたい「見る」スポーツは 武道(柔道,空手,剣道,合気道)

(2018.3スポーツ庁)

国土交通省スポーツ庁HPより

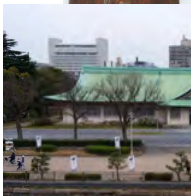
私のお勧めは、大阪での剣道



理由は4つ

- 1 剣道最高位の範士八段や教士八段と、質の高い稽古 (平日夜間、大阪城の修道館にて)
- 2 大阪城は外国人にも人気スポット (5分も歩けば、天守閣や融合施設のミライザへ)
- 3 大阪には、まだ知られていない観光資源がある
- 4 関西国際空港から近い(1時間半) (京都や奈良へも1時間)

大阪市立修道館 (剣道・柔道・なぎなた・居合道等)



大阪市立修道館HPより

八段の先生方 (○印)と

質の高い稽古



大阪府剣道連盟HPほかより

大阪城南の上町 には、今なお 古い町並みと剣豪・剣客たちの逸話が

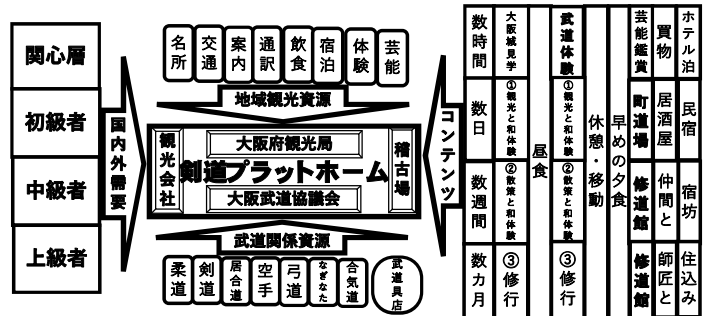
映画『燃えよ剣』より

http://www.osaka-asobo.jp

五十軒屋敷 (鉄砲同心屋敷)

剣道プラットフォームで繋ぐ

- 1 需給関係を繋ぐ新しいビジネスの創造
- 2 剣道のレベルに合わせたコンテンツ(昼間・夜間等)の企画
- 3 ペースとなる地元企業の活動誘致



昼間コンテンツの例

- ①観光と和体験 四天王寺界隈で和服姿で茶華道
- ②散策と和体験 幕末コースと精進料理づくり
桃井春蔵コース 天満～城南
伊庭八郎コース 下寺町～四天王寺
- ③修行コース 侍極み・師匠宅弟子入り修行
技匠・・・刀鍛冶武道具職人修行
剣交・・・諸国武者修行
ロマン・・・和文化のプロ修行

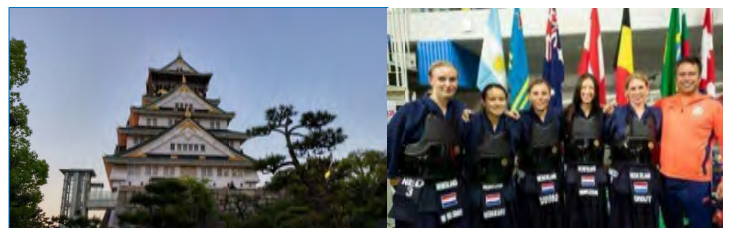
<参考 平成29年度 大阪検定客員研究員発表>
「発見！幕末・明治 剣豪たちの足跡」

今後の課題

- 1 「大阪の撃剣興行と鏡心明智流」研究の学会発表
- 2 「大阪剣道プラットフォーム」の実現促進
- 3 「幕末・明治 剣豪・剣客 おおさか散歩」の普及
- 4 思わずやりたくなる剣道コンテンツの普及

主な参考文献

- 朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」
- 伊丹市立博物館所蔵の小西家史料
- 大阪観光局HP
- 大阪府剣道連盟HP
- 大林組歴史館所蔵の大阪武徳殿史料『剣道日本』
- 国土交通省スポーツ庁HP
- 全日本剣道連盟HP
- 見世物興行年表 ほか



全日本剣道連盟HPより

剣道で大阪を盛り上げましょう

「大阪の近代剣道界から学ぶ武道ツーリズム」

柴田洋一

1 研究課題

(1) 資料の再発見

① 大阪の撃剣興行についての史料

a **撃剣の見世物は、大阪がはじまり【新発見】**『明治見世物興行年表』から引用
blog.livedoor.jp / misemono / archives / cat_50046848 (2014/02/14 作成)

明治6年(1873年・癸酉)

一月より、大阪難波新地にて弓馬鎗剣の試合、松島にて鎗剣長刀花棒の見世物。

(『近來年代記』 / 「日要新聞」五月74号)

「花持(編者註: 棒の間違いカ) ツカイ 是ハ鎗・刀・くさり鎌など仕合ニして、けんしゅつの通りニして、本ぬき身ニして仕合、元とりを切しをまけとすなり。」(『近來年代記』)

「大坂より報知に、難波新地にて弓馬鎗剣試合の看板を掲げて其修練を盡せり。(小太刀) 加藤幸助(十手) 同藤九郎(長刀) 藤三郎(鎗) 新九郎(長刀) 渡辺庄三郎(鎖鎌) 根笹重助(小太刀) 同伊三郎(十手) 犬飼九郎左衛門(棒) 森治平(竹刀) 浅野文四郎、是ハ尾張人のよし。松島には鎗剣長刀花棒の見世物ありと。此芸術方今の人気に適ひ、再た盛んに行ハれなば、彼の野蛮風なる赤裸角力は自然廢するに至るべし。」(日要)

〈註記〉『日本初期新聞全集』52巻・346頁より転記。

〈編者註〉明治撃剣会は、この年四月二十六日より榊原鍵吉が東京浅草左衛門河岸でおこなったものを創始とするが、それ以前に大阪難波新地や松島ですでにそれに類した見世物が行われていたことが知られる。

< 参考映像 >

The first kendo motion picture from 1897(明治30)年

<https://youtu.be/WN9SDF05nX0>



b 大阪の撃剣興行の中心的存在は、鏡心明智流の剣豪・劍客【新発見】

1869(明治2)年ごろ、新政府に許されて出仕した**鏡心(新)明智流**の四代目**桃井春蔵直正**※1は、江戸にあった**士学館**※2を、北桃谷町の**五十軒屋敷**(現、大阪市中央区谷町の桃谷公園東側)にも構えました。

※1 **桃井春蔵直正**…子孫の桃井末廣氏の説によると、「明治政府に反対する勢力が応神天皇陵の襲撃事件を起こすかもしれないと疑いが起きて、菅田八幡宮の神職をしながら御陵を護ってほしいと仁和寺宮から頼まれた。」桃井家伝来の系図によると、古くから皇族との関係が深く、その縁により、直正は幕府遊撃隊から離脱後に、明治政府の官吏へと転身を遂げた。桃井家がかつて所蔵していた書状から次のことが分かる。

伏見御所御役所より

慶応4年5月、願いの通り御家来を仰せ付けられた。

明治2年4月、撃剣師範役を命じられた。

大阪府より 明治3年7月12日、大阪府権大属に任じられた。

明治3年7月12日、庶務掛を仰せ付けられた。



神道取締より明治8年3月、事務掛を申し達せられた。
堺県より 明治8年3月、菅田(こんだ)神社兼菅生(すごう)
神社祠官を申し付けられた。

明治9年12月5日、仲哀皇后陵掌兼務を申し付けられた。
(?)より明治9年12月5日付けで榎中講義に任じられた。
(人々に講話をする役割)

神道事務より明治12年4月8日、(?)局副長(?)に任じられた。(()内は調査中)

※2 士学館…四つの流派を総合してつくられた総合武術であった鏡心明智流桃井家の稽古場で、初代直由(なおよし)が日本橋南茅場(かやば)町に開いた。二代直一(なおかず)が浅蜷河岸(あさりがし)に移した。近所には遊所があって、弟子がよく通って風紀が良くなかった。1856(安政3)年に武市半平太瑞山(土佐国高知藩士、小野派一刀流(中西派)、土佐勤王党盟主)らが入門した。武市の師の麻田勘七直養(なおもと)は鏡心明智流三代直雄(なおかつ)の弟子で、また、武市が国元で営んでいた道場には、村上圭藏(豊後国岡藩儒者、鏡心明智流)が訪れて剣術を門弟たちに教授したと伝えられる。土佐へは士学館の一団が数回剣術指南に訪問したともいわれる。四代直正は腕前と人物を高く評価して武市に一年で免許を与え、塾頭に任じて風紀を粛清させたという。夏の恒例行事として、水上の西瓜切りが評判であった。また、内弟子には、書は人間をつくるものだといって、毎晩習字させたという。門前には嘉永年間(1848-54)に別府金七という人物が、士学館に通う武士の刀を預かる留守居茶屋を創業し、1866(慶応2)年に「竹葉亭」と号した(のち、1871(明治5)年「東京高名三幅対」に「蒲焼・京橋・竹葉亭」とあり、現在、老舗の蒲焼店で有名な銀座の竹葉亭の前身、二代目金七は山岡鉄舟の剣術の弟子)。1866(慶応2)年に入門した小野清(仙台藩士)は、入門の作法が密教的で、のちに入門した北辰一刀流と同様であったという。当時、養子の左右八郎直行が二階に内弟子数人を置いて、養父に代わって稽古を続けていたと伝えている(直行は直心影流第15代の長沼称郷(可笑人)と並ぶ遣い手といわれたが、1877(明治10)年死去。直行の遺族の行方は未詳。ただ、伊丹市立博物館収蔵の小西家史料から1897(明治26)年の武術家名鑑には、東京に鏡心明智流の桃井直敬という人物の記述がある。

大阪士学館三傑と評価すべき人物たちが活躍しました。

三傑とは、師範代兼塾頭の桃井(のち秋山)多吉郎(阿波国徳島藩士、大日本武徳会剣道範士・柔道教士)、黒屋(のち黒谷)左六郎(くろやさろくろう、豊前国中津藩士、大日本武徳会第5回精錬証)、瀧口焯一(たきぐちよりかず、豊後国杵築(きづき)藩士、士学館最後の師範代、のち奈良県選出衆議院議員)でした。

町道場では、黒谷左六郎の安堂寺町道場(現、中央区安堂寺町一丁目)、秋山多吉郎の学習館(現、西区南堀江三丁目ほか)、元新撰組の谷万太郎の道場(種田流槍術(素槍)・柏原流槍術(鍵槍)・直心流剣術、現、西区南堀江二丁目)ほかが開かれました。

このころ、明治政府は士族にとっては不利と思える改革を次々に行いました。1871(明治4)年に廃藩置県が断行され、政府と藩財政が切り離され、士族は勤め先と家屋敷を失いました。筑後国久留米藩では指南役制度も廃止となり、剣術指南役であった津田一伝流の津田一左衛門正之は、1872(明治5)年に抗議して伝書一切を焼いて自刃する事件が起きました。1873(明治6)年に廃刀令と秩禄処分がおこなわれ、武士の証であった刀を帯びることが許されず、僅かな一時金を手に入れても没落する士族が増えました。このとき、江戸の直心影流の長沼称郷可笑人は、流派の伝承を断念したと伝えられます。

こののち、士族の剣術には四つの流れが作りだされます。一つには新政府側の警察で巡查や撃剣世話掛※3となる流れで、収入の安定と治安維持のために剣術が必要になります。二つには新政府への不満から不平士族となって暴動に参加するための剣術で、西南戦争後は自由民権運動の壮士として剣術が必要になります。三つにはおもに政府に取り残された江戸の旧幕臣や元佐幕派の士族が中心となって始めた、生きる術としての撃剣興行で見世物としての派手な剣

術が必要になります。四つには新政府とは関係を断ち切り、帰農して地道に働き、また、**地元の人材育成**のために剣術道場や学校教育に携わるための剣術です。

※3 **撃剣世話掛**…創設時期に士学館四天王※4の剣客たちが多く採用され、鏡心明智流の伝統が警察剣道に活かされるきっかけとなった。撃剣世話掛の伝統は、現在、警視庁剣道教師に引き継がれ、伝承される警視流の形には古派の奥義が残されている。

※4 **四天王**…**鏡心明智流の四代目桃井春蔵直正の有力な弟子たちで、上田馬之助美忠**(うへだうまのすけよしただ、肥後国新田藩士)、**坂(阪)部大作**(前出(さかべたいさく、三河国吉田(豊橋)藩士、のち大日本武徳会第5回精錬証・第1回剣道範士)、**久保田晋蔵**(くぼたしんぞう、駿河国浜松藩士)、**兼松直廉**(かねまつなおかね、下総国佐倉藩士)の四人。彼らは、**4人とも(上田は1879(明治12)年、後3人は1883(明治16)年に)警視庁撃剣世話掛**となった。かつて**隨身**(ずいしん、他流派からの短期入門者)であった**梶川義正**(かじかわよしまさ、幕臣か、小野派一刀流)、**三橋鑑一郎**(みはしかんいちろう、三河国岡崎藩、東軍流、武蔵流、二刀流で「蟹の三橋」の異名)、**逸見宗助**(へんみそうすけ、下総国佐倉藩、立見流)らも加えて、**東京警視庁の剣道の中心的存在**となっていた。また、明治天皇の侍従として有名な**山岡鉄舟**(幕臣)も一時期、士学館に修業に通ったと自伝に残している。大東流合気柔術の**武田惣角**(1859-1943)も自伝に、16歳のころ九州の西郷軍へ参加することを決意し、1876(明治9)年11月に榊原鍵吉からの手紙をたずさえて大阪天満の鏡新明知流の桃井春蔵道場に到着して、翌年にかけて客分となったが、警戒が厳しく断念したとされている。また、それより先に惣角は13歳のころ、直心影流剣術の榊原鍵吉の内弟子になったとされているが、弟子の佐川幸義や望月稔の証言によると、直心影流ではなく、鏡新明智流の桃井春蔵(直正)に学んだと伝えられている。

c 新聞記事から見た大阪の撃剣興行

このころの「朝日新聞」には、大阪での**撃剣興行**と**市中巡回**の記事が、度々、載せられています。明治10年代前半が、大阪の撃剣興行の全盛期であったと思われまます。また、出場選手の番付表(未発見)をつくると述べられています。

1879(明治12)年に、西南戦争で活躍して勲七等を受けた**西田與三郎**と**馬場伊太郎**(ともに出身未詳、鏡心明智流)が、**撃剣稽古場**を東区南新町二丁目十四番地(現、中央区南新町1丁目)をはじめ**四か所**に設けました。

1880(明治13)年3月19日からの五日間、発起人**西田與三郎**、補助**秋山多吉郎**で、**南地金毘羅神社**(現、道頓堀南側の法善寺界隈か)空地にて**撃剣会**と**演舌会**を行いました。21日には飛び入りの外国人と秋山先生が立ち会って、竹刀を打ち落として面を打ち、勝ちをおさめました。

同年9月7日には、撃剣家**桃井**、**秋山**、**西田**の数名が**天王寺雲水**にて懇談会を開き、これを初回として以後毎月一度開こうとしたと伝えています。

また、同日の記事には、**秋山多吉郎**が市中の盗難防止のために撃剣家を集めて毎夜巡回を西区役所に届出て許可されたと報じています。

同年9月16日には、**秋山社中の島(鳥?)村正義**ら七八十名の有志と相談して、出火の現場に駆けつけて難渋者の荷物を片付けるための目印として灯燈旗等を府庁に出願しました。

1881(明治14)年7月6日には、府知事の**建野郷三**(たてのごうぞう、豊前国小倉藩士)から、府下各警察署の巡查は、**秋山多吉郎**の下で撃剣を研究するように命じたと報じられています。

1882(明治15)年10月31日には、**西田與三郎**が**報国館**(東区内本町橋詰町59番地(現、大阪商工会議所南側))の館長として、**大阪鎮台練兵場**(旧陸軍所跡、現、大阪城南外堀の南側)において**各府県武術撃剣大会**を11月3日に行う広告を載せています。

1883(明治16)年1月14日には、二件記事があり、一面二段目に、本日**建野知事**の邸内にて**警部巡查撃剣会**が催され、賞品として一等は刑法治罪法指令録各一部で、二等以下は肉襦袢(にくじゅばん)等とあります。

三段目に剣客住吉橋の秋山氏方へ明 15 日、滋賀県の撃剣家高山某(峰三郎※5か)がその弟子百名ばかりを連れて来て、盛んなる試合をなすという。

同年 6 月 15 日には、秋山多吉郎を催主として、松島天神社(大阪天満宮行宮(御旅所)、現、西区千代崎)において剣術槍術柔術大会を奉納すると広告を載せています。

※5 高山峰三郎(たかやまみねさぶろう、1835-1899)は、伊予国大洲藩士の子で、江戸に出て、直心影流、忠也派一刀流、北辰一刀流を学ぶ。さらに、桃井春蔵に随身入門し、秋山多吉郎とともに、士学館に寄宿していたときに、上田馬之助と天童藩士との事件に遭遇した仲であった。後、京都へ移り、直心影流の戸田一心斎道場の師範代となり、平戸藩士桑田源之丞(籠手田安定)と知り合う。1868(明治元)年、松江藩剣術師範となるが、廃藩により解雇。滋賀県令となった籠手田の計らいで、県の警察部一等巡査に採用され、1880(明治 13)年養勇館の落成時に場長となった。1883(明治 16)年 12 月、警視庁の撃剣世話掛 36 名を連破し、最後に逸見宗助には敗れたものの明治剣道史の大記録で有名となった。1884(明治 17)年 11 月 8 日の警視庁主催の向ヶ丘弥生社撃剣大会にも出場し、昨年敗れた逸見宗助に勝ち、全勝した。高山の全盛期であった。

1885 年(明治 18 年) 9 月、島根県知事となった籠手田の引きで、島根県御用掛として剣術を教授した。1891 年(明治 24 年)1 月 23 日、兵庫県庁内の撃剣大会の特別試合で松崎浪四郎と対戦して勝利、1893 年(明治 26 年)6 月、大阪府警察部に転任した。1895 年(明治 28 年) 10 月、大日本武徳会第 1 回武徳祭大演武会に出場。三橋鑑一郎に敗れたが、特に優秀として第 1 回精錬証(当時の最高賞)を授与された。この頃には、籠手田とは疎遠になっていた。1896 年(明治 29 年) 4 月、滋賀県知事に再任していた籠手田が、高山、奥村左近太、香川善治郎、高橋赳太郎らを招いた大津での撃剣大会の折り、62 歳の高山は 25 歳の小関に敗北。剣士生命を終えた。1899 年(明治 32 年)2 月、大阪で死去。享年 65 歳。墓地は阿倍野墓地の警察墓地(墓地南西角の柵内右手の自然石)。

②大阪の警察剣道

a その始まり

戊辰戦争では、1868(慶応 4)年 1 月の鳥羽・伏見の戦いで、大坂城は火災が発生し、市内は大いに混乱しました。

明治維新には、幕府離脱後、新政府に許されて出仕した鏡心(新)明智流の四代目桃井春蔵直正が、天満橋筋に住み、川崎建国寺(現、造幣局)に剣術道場を開き、官軍の長州藩兵らに剣術を教えました。1868(明治元年)11 月、彼は治安維持のために既に設けられていた府兵の浪花隊の監軍に任じられ、1869(明治 2)年 4 月になると、撃剣師範役を兼ねました。桃井春蔵は白鉢巻、朱塗り胴、打裂羽織、銀拵え黒漆塗りの日本刀を帯び、紫の房で飾った馬に乗っていました。

浪花隊は、現在の大阪府警の前身にあたり、1868(慶応 4)年 5 月 2 日に、本部を大阪府庁(旧西町奉行所跡地、現大阪商工会議所)に置いて設けられました。当初は、旧大坂定番与力・同心を中心に、府兵 2 小隊 80 名で編成されました。隊士の服装は、和装から当時はまだ珍しかった洋装に変わり、装備は洋式ライフルのほか、大砲も備えて調練しました。巡回の先頭に赤色の隊旗を立て、軍楽隊をつけて賑やかだったといわれます。巡回地域は市内の旧大坂三郷(天満組・北組・南組)と川口(現、西区本田)に開かれた外国人居留地でした。翌年(明治 3 年)には拡充されて 600 人以上となり、政府が独自の軍事的組織を警戒して軍制改革をすすめたため、解散になりました。



錦絵 玉江橋



錦絵 高麗橋

その後、治安維持の役割は、1870(明治3)年に補亡吏に始まり、取締番卒、取締邏卒と改称されて、1874(明治7)年に警察課が設けられました。そして、1875(明治8)年に出仕した人物が**柴江運八郎**(しばえうんぱちろう、肥前国大村藩士、一刀流、のち神道無念流、大日本武徳会第3回精錬証、第1回剣道範士)でした。彼は、1868(慶応4=明治元)年の戊辰戦争の奥州征討と1874(明治7)年の佐賀の乱に参加した経歴をもち、1881(明治14)年八等警部まで昇進しました(1885(明治18)年には大分県警察部を経て、1895(明治27)年に長崎へ帰郷)。

1872(明治5)年(知事不在期間)に**大阪府権知事**に着任した人物は、**渡邊昇**(わたなべのぼり、肥前国大村藩士、神道無念流、練兵館塾頭、「鞍馬天狗」のモデル、**剣豪知事**、大日本武徳会第1回剣道範士)でした。彼は1877(明治10)年には**大阪府知事**に就任して**西南戦争**を乗り切り、また、市中の消防組織を充実させるなど、府政に大いに貢献しました(渡邊は1880(明治13)年政府へ転出)。

その後、1877年(明治10年)西南戦争の影響で、不平士族の反乱を抑えるために政府は剣術を禁じており、京都では県知事が「撃剣の稽古をなす者は国事犯嫌疑者として監禁する」として、逆らって稽古をしていた**小関教道**(丹波国亀岡藩士、神道無念流、大日本武徳会第2回精錬証)を二条城内に半年余監禁する事件が起きていました。しかし、西南戦争での政府**抜刀隊**や**別働隊**の活躍と、1878(明治11)年の内務卿の大久保利通暗殺をはじめとする襲撃事件の発生から、政府要人警護の必要に迫られた大警視(初代警視総監)の**川路利良**(薩摩国鹿児島藩士、薩摩の直心影流(真影流))が**撃剣再興論**を唱え、各警察署の巡查に帯剣させ、巡查教習所で撃剣を教授する動きが出てきました。

b 警察と撃剣家との交流

1878(明治11)年4月には、**高橋赳太郎**(たかはしきゅうたろう、播磨国姫路藩出身、無外流剣術(高橋派)、津田一伝流剣術、警視庁撃剣世話掛、三郎三傑※5の一人、大日本武徳会第2回精錬証、剣道範士)が、剣術修行のために、名目上「曲戯(見世物)業願」の許可を兵庫県権令に得て、近畿、中国地方の各県を数ヶ月間かけて回る途中、大阪で**秋山多吉郎**の学習館に数日滞在しました。その後、剣術修行から故郷の姫路へ戻った彼は、兵庫県臨時雇巡查を経て、1880(明治13)年12月**大阪府四等巡查**に採用され、西区**西長堀警察署**詰めとなりました。『高橋先生八十年史』によると、「先生、大阪に留まるどころ三年、その間、公務の余暇、鏡新明智流の大家**秋山多吉郎**の道場に於て、場主秋山と技を角し術を磨き、且つその門弟を指南せられたり」とあります。

1880(明治13)年に、香川県から**香川善治郎**(かがわぜんじろう、香川県出身、山岡鉄舟の一刀正伝無刀流第二代、大日本武徳会剣道範士)が、修業の途中に**秋山多吉郎**の学習館に立ち寄りしました。以後、弟子を連れて訪れ、稽古したといわれます。

1883(明治16)年に、高知県から**馬淵桃太郎**(土佐国高知藩士、鏡心明智流、堺事件では六番歩兵隊長箕浦猪之吉の介錯人)に率いられた**撃剣興行**一座が大阪に来たときに、**高橋赳太郎**(前出)は一行の**川崎善三郎重徳**(かわさきぜんさぶろう、高知国土佐藩出身、無外流土方派)との対戦で、無外流の同門対決のため、なかなか決着がつかずに組討ちにもつれ込んだところ、審判の**秋山多吉郎**が「死ぬまでやれ」と励ます中、二人とも意識を失うまで戦いました(高橋は1886(明治19)年、兵庫県巡查教習所武術教員に転出)。

1884(明治17)年に、大阪府警部長に**大浦兼武**(薩摩国鹿児島藩士、のち大日本武徳会会長)が赴任すると、羽曳野市の**菅田(こんだ)八幡宮**と**菅生(すごう)天満宮**の神職となって**応神天皇陵**等を警護していた**桃井春蔵直正**を、大阪府御用掛

剣道指南方に任じるなど、在任中は警察で剣道が再びに盛んになりましたが、1885(明治 18)年の大洪水のあと、直正は 12 月に亡くなりました(墓地は誉田西墓地)。(大浦は 1888(明治 21)年政府へ転出)。

1892(明治 25)年の春、大阪府警察部主催の剣道大会で、**大阪府警察部師範の秋山多吉郎**(48 歳)が京都府警察部師範の松崎浪四郎(60 歳)と立ち合い、小手で一本勝ちしたと伝えられています。

c 大日本武徳会との関わり

1893(明治 26)年 6 月、**大阪府警察部剣道教師**として、**高山峰三郎**(前出)が転任し、大いに警察で剣道が盛んになりました(高山は 1899(明治 32)年 2 月死去)。

1895(明治 28)年、**渡邊昇**(前出)が発起人の一人として、武術教育による精神鍛錬をめざす**大日本武徳会**が京都で組織され、総裁に**小松宮彰仁親王**(皇族、陸軍大将、維新時の名称は**仁和寺宮嘉彰(よしあき)親王**として大坂へ入場)が就任しました。1899(明治 32)年 6 月に大阪でも宣伝のために、大阪府警察部の**巡查教習所**(西区江之子島)にて撃剣会を催しました。大阪勢として、**秋山久次郎(多吉郎と思われる)**、**細川範輝**(出身未詳)、**絹川清三郎**(もと小倉藩剣術師範、四條畷中学^{※6} 師範)、**小南易知^{※7}**(大阪府出身、一刀正伝無刀流、**大日本武徳会第 1 回精錬証**)らが参加しました。

※6 四條畷中学…剣道部員だった**安岡正篤**(やすおかまさひろ、陽明学者)は大会で優勝した。

※7 小南易知…小南は山岡鉄舟の高弟で、一時期、大阪の汐見橋駅近くの剣術道場(所有者は綿布問屋主人の布井弥助)の師範であった。この道場には小南と同門の縁で、**香川善治郎**(前出)が、山岡の高弟の河村義益、藤里新吉、中条克太郎、中村余所吉、佐野治三郎にくわえて、香川の高弟の石川竜三、中島春海らが稽古に訪れた。ここに通ったのが、天王寺中学の**草鹿龍之介**(くさかりゅうのすけ、一刀正伝無刀流第四代、海軍中將)であった。**草鹿任一**(くさかじんいち、海軍中將)が従弟にあたる。

しかし、明治 30 年代に大阪の剣道界は、大日本武徳会の会員数で全国ワースト 3 に入るほど衰退し、その大阪支部を創るには十分ではありませんでした。

1903(明治 36)年に天王寺公園と堺の大浜公園で催された第 5 回内国勸業博覧会の期間中には、5 月 9 日に**日本体育会全国武術大会**が会場内で開かれ、全国の剣客が技を競いました。審判には**細川範輝**、**小南易知**、**秋山多吉郎**らがつとめ、参加者が盗賊を懲らしめる記事が新聞に掲載されるなど、大いに盛り上がりました。

このころ、1900(明治 33)年には、河内長野の烏帽子形八幡宮の社掌(郷社の神官)となっていた**黒谷左六郎**(前出)が**大日本武徳会の大演武会**にて大活躍し、**第 5 回精錬証**を授与されています。その後、彼は弟子たちとあわせると 1901(明治 34)年から 1904(明治 37)年まで連続出場した記録が残されています。



前列左から 3 人目が師匠の**黒谷左六郎**(紋付き姿)と考えられる【新発見】
弟子の八木新左衛門は二列目 5 人目(髭の青年) (八木氏蔵)

③大阪武徳殿と大阪支部の創建と稽古等の記録

全国の支部は、警察を母体として組織され、1910(明治 43)年 3 月に大阪支部が認可されました。道場の**大阪武徳殿**は、博覧会跡地の天王寺公園北(現、天王殿)に大林組によって建設され、1912(明治 45)年 6 月竣工しました(1945(昭和 20)年戦災で焼失)。この地で、**秋山多吉郎**もたびたび稽古に汗を流しました。

このころは**武術から武道への転換期**にあたります。1882(明治 15)年に講道館を創設した嘉納治五郎が起倒流にならって、柔術に代わり柔道の語を用いました。剣術では、東京の警視庁で 1912(大正元)年 12 月に撃剣を**剣道**に改められました。1909(明治 42)年以降、配置されてきた武術師範は、1914(大正 3)年に**武道師範**と改称されました。大日本武徳会は、1919(大正 8)年に剣術、撃剣などの名称を剣道に統一し、弓術を弓道と改称し、柔術部門も改めて柔道部門と改称しました。

秋山多吉郎は、1916(大正 5)年に大日本武徳会から**剣道範士**号を授与されました。1928(昭和 3)年に**柔道教士**号を授与され、翌 1929(昭和 4)年、柔道範士号授与の内定を固辞しました。実現すれば、剣道・柔道の両範士号の初の保持者となったところでした。

多吉郎が 82, 3 歳(1927(昭和 2)年)のころ、天王寺公園の北にあった大阪武徳殿での稽古が充実していた頃でした。中央に丸に土(土学館)の紋が書かれた赤胴で稽古をしていたと、当時、稽古に通っていた**中尾巖**(なかおいわお、**大日本武徳会範士**)が回想しています。

また、**秋山多吉郎**が、昔から大切にしていた刀のような杖を、**志賀矩**(しがのり、鹿児島県出身、**大日本武徳会剣道範士**)に譲り、一本歯の下駄で器用に歩いていたという話が残されています。この杖は、東京の**榊原健吉**(直心影流、撃剣興行の創始者)が発明した大和杖(倭杖=やまとづえ)ではなかったかといわれています。また、秋山多吉郎が持っていた仕込み杖は、刃を抜くとたたまれていた鏢が飛び出す仕掛けだったので、幼かったころ、孫の**秋山英武**(あきやまひでたけ、和歌山県出身、剣道範士八段)は、その仕込み杖が欲しかったと書き残しています。**秋山多吉郎**は、1934(昭和 5)年 2 月 2 日、堺で 90 歳での天寿を全うしました(墓地は阿倍野墓地)。

1937(昭和 12)年に、**重岡昇**(しげおかのぼる、鹿児島県出身、大日本武徳会武道専門学校卒、のち大阪府警察部師範、**範士九段**)が、当時、**大阪府警**主席師範であった**志賀矩**(前出)に師事した記録が残っています。戦局が悪化した 1944(昭和 19)年に、本土決戦に備えるためにもともに郷里に帰りました。戦後、二人は再び大阪府警で活躍しました。

坂上隆祥(さかがみりゅうしょう、兵庫県西宮市出身、空手道範士九段、剣道範士七段、居合道範士八段、杖道教士七段)は、剣道を伊丹市の**修武館**道場で学び、後に**富山円**(とみやままだか、播磨国龍野出身、直心影流、江戸で二代**齋藤弥九郎**(新太郎)や**桃井春蔵**に師事、**大日本武徳会剣道範士**)と、**志賀矩**(前出)に師事したといえます。富山円は伊丹の酒造家**小西新右衛門**の招きで、修武館道場の教頭を担いました。

④大阪武徳殿についての記録

a 大阪武徳殿

候補地 中之島公園や築港埋立地

建設地 天王寺公園(現、天王寺動物園の北西部)

写真 大阪武徳殿(『大林組 70 年略史』(1961)より)



位置 大阪武徳殿と武徳会大阪支部



大阪市街地図(昭和初期)



大阪パノラマ地図(大正 13)

地名 天王寺区玉水町 1(現、茶臼山 1-108)

立地 大阪市からの無償提供(市有地)

天王寺公園の開業は 1909(明治 42)年 3 月

設計 松本禹象(1871-1945)大林組の建築部長

施工 大林組

総工費 52,905 円 建坪 125 坪(実際 57,000 円 162.22 坪(535 m²))

(京都 1,053 m²の約 1/2)(全国平均約 390 m²)

敷地面積 1,500 坪(4950 m²)(京都 18,210 m²の約 1/4)(全国平均約 2,000 m²)

様式 純和風の木造建築、瓦葺きの二階入母屋造
屋根の上層には千鳥破風、下層には唐破風

起工 1910(明治 43)年 7 月

竣工 1911(明治 44)年 11 月

内部構造 京都武徳殿を模す

入口 東側から

正面奥 上座 6 畳(東向き)

中央演武場 面積約 125 m²、
横幅 47 尺(14.24m)、縦幅 29 尺(8.79m)(京都約 278 m²の約 1/2)

天井高約 30 尺(約 9m)(京都 8.03 より少し高い)

観覧席 二段造りで周囲 3 方に 約 270 m²(1 m²に 1 名で 270 名)

床下 甕 12 個

用途 剣道、柔道、弓道

稽古時間帯 昼の部 1 時間半 夜の部 1 時間半

休日 日曜日や祝祭日、正月1-4日、2月(12月の誤りでは?)26-31日

b 武徳会大阪支部事務所

建物 125坪 延坪 64.8坪(実際 57.33坪)

様式 洋風2階建 外壁タイル張り

1階に事務所と応接室、2階に大広間兼大食堂と貴賓室

他に、敷地内には浴場及厠

焼失 1945(昭和20)年3月13日深夜から米軍の空襲にて焼夷弾攻撃を受ける

⑤大阪府警の剣道教師

『大阪府警察史第2巻』(大阪府警察本部発行)によると、大阪では、1917(大正6)年に大阪府警察部に**武術師範**(p532、p538では武道師範)が設けられ、定員は柔道1名、剣道1名の合計2名でした。また、警察署勤務の武術教導を1930(昭和5)年には**武道教師**と改称し、巡査部長の資格を与えました。

その間に、定員は大正9年からは合計6名、昭和6年には5名、昭和7年～10年には4名に減少しましたが、昭和7-10年に4名、昭和14年からは10名へと変化が見られました。

また、警察官の中から柔道や剣道に勝れている者が**武道教養係**として登用されました(当初は任免や服務に明確な規程がありませんでしたが、昭和17年に武道教養訓練規程を定めました)。

1917(大正6)年、剣道師範に**小関教政**(おぜきのりまさ、京都府出身、心形刀流と無刀流、大日本武徳会剣道範士)が転任し、警察剣道は大いに興隆しました(小関は1920(大正9)年旅順へ転出)。

戦前、剣道の歴代主任師範は**小関教政**(前出)、**志賀矩**(前出)、**越川秀之介**(茨城県出身)へと引き継がれました。

その後の剣道師範について、元府警師範であった片岡茂範士が著した『大阪府警察のあらまし』(校正・加註は村岡三郎教士七段)の内容を加えてまとめると次のようになります(かっこ内は出身県)。剣道教師の名称は、剣道禁止期間に、師範が体練係に変わり、拳銃警棒操法などの指導研究に従事しました(警棒の形は、「小野派小刀の型」であったと伝えられています)。

小関	教政	(京都)	大正6～9年
志賀	矩	(鹿児島)	?～昭和18年
越川	秀之介	(茨城)	昭和18～39年(22～26年頃は剣道禁止期間)
斯波	和雄	(北海道)	昭和29～37年
指宿	鉄盛	(鹿児島)	昭和39～40年
長谷川	寿	(新潟)	昭和40～43年
六反田	俊雄	(宮崎)	昭和43～44年
村上	正次郎	(大阪)	昭和44～47年
和田	政清	(大阪)	昭和47～52年
地頭江	徹郎	(鹿児島)	昭和52～57年
加来	俊彦	(大分)	昭和57～59年
園田	政治	(熊本)	昭和59～60年

2017(平成29)年8月末、大阪府警本部の術科にお電話で、歴代剣道師範についてお尋ねしたところ、「そのような資料は術科にはないし、研究している人もいない」というご回答でした。

大阪府警の特練は、全日本剣道選手権の優勝者を多数輩出し、現在でも全国警察剣道大会においてトップクラスのレベルを誇っています。

⑥大阪の剣士たちの実績（全国大会、第二次世界大戦終了まで）

1927(昭和2)年第4回明治神宮体育大会	藤川善海	25歳以下の部	第2位
1929(昭和4)年第5回明治神宮体育大会	田中正人	警察官の部	優勝
1931(昭和6)年第6回明治神宮体育大会	大阪府	青年団団体	第2位
1933(昭和8)年第7回明治神宮体育大会	石田秀之助	一般30歳以上専門家	優勝
	中尾巖	一般20歳未満の部	優勝
1937(昭和12)年第9回明治神宮体育大会	森下年一	青年団個人	優勝
	中尾巖	一般青年部	第2位
	酒匂久	一般成人部	優勝
1939(昭和14)年第10回明治神宮体育大会	大阪市	青年団府県対抗	第2位
	大阪府	一般府県対抗	優勝
1940(昭和15)年第11回明治神宮体育大会	大阪府	青年団府県対抗	第2位
	千葉隆造(大阪帝大)	大学、高専校	第2位
1942(昭和17)年第13回明治神宮体育大会	酒匂久	府県代表個人	優勝

参考文献

- 大阪府警察本部 1972『大阪府警察史第2巻』
- 大塚忠義 1995「撃剣興行の登場と衰退」、『日本剣道の歴史』窓社
- 大林組 1961『大林組70年略史』
- 小佐野淳 1994「<十二>密教文化と武芸」、『図説・日本武芸文化概論』風洋社
- 小佐野淳 2006「講武所剣術師範 鏡新明智流（桃井春蔵直正）」、『概説・武芸者』新紀元社
- 片岡茂範士『大阪府警察のあらまし』（校正・加註は村岡三郎教士七段）
- 剣道時代編集部 2005、『私の剣道修行』第一巻 体育とスポーツ社
- 小林義孝(2019)「撰河泉の陣屋」『大阪春秋 No175 大阪城の研究』新風書房
- 中井憲治 2012「警視流立居合に関する研究」、『仙台大学紀要』44(1)
- 中嶋哲也 2017「第1章 撃剣興行と警察武術(第1部<術から道へ>—嘉納治五郎と講道館柔道の成立)」、『近代日本の武道論—<武道のスポーツ化>問題の誕生』、国書刊行会
- 中房敏朗・村元辰寛(2017)「大阪武徳殿に関する史的考察：その建築構想から焼失に至るまで」、『関西武道学研究』日本武道学会関西支部 26(1). 11-28, 2017-03
- 大阪市立中央図書館 デジタルデータ『朝日新聞聞蔵Ⅱビジュアル』
- 『明治2・3年の府職員録浪華隊名簿』（大阪府立中之島図書館）
- 山中善三郎「明治26年日本武術名鑑」（伊丹市立博物館）
- 小西家史料『撃剣興行番付』（伊丹市立博物館）

『明治見世物興行年表』blog.livedoor.jp / misemono / archives / cat_50046848 (2014/02/14 作成)

ほか

本文中の人物解説には、初出箇所がカッコ内、二度目は(前出)、三度目以降はつけなかった。

『幕末・維新 大坂の剣豪・剣客』に興味のある方は、**大坂 幕末 剣豪**で**検索** ⇒ [PDF「発見！幕末・明治 剣豪たちの足跡」](#)をご覧ください。

大阪の企業とスポーツ

—大阪人を「野球」好きにした企業と企業家たち—

前阪 恵造

【目的】

「野球」は「相撲」について第二の国技といわれるほど、親しまれているスポーツ。熱狂的な応援で知られるプロ野球の阪神タイガース、高校球児の聖地である甲子園球場などを控え、大阪は「野球王国」「野球どころ」といわれる。なぜ、大阪人は「野球」が好きなのか。野球発展の歴史を繙くと、明治の「野球」普及期や昭和初期のプロ野球球団誕生期、戦後の復興期に大阪の企業や企業家が関わってきた。

本研究では、「野球」の普及期やプロ野球球団誕生とその変遷を通して、大阪人を「野球」好きにした企業と企業家たちの野球との関わりについて振り返る。

社会人野球も野球の発展に関わってきたが、今回は時間の都合もあり、次の機会に触れたい。

【内容】

明治5年、お雇い外国人ホーレス・ウィルソンが教壇で教える傍ら生徒に野球を教えたのがはじまりとされ、明治期は学生野球を中心に野球が発展した。慶応義塾大学体育会野球部と早稲田大学野球部の伝統の「早慶戦」が生まれたのもこの頃である。明治39年、当時、三井銀行に勤めていた小林一三は「早慶戦」観戦の感想を「是程面白いものは又と世界にあるまい」と日記に残している。

朝日新聞社主催、夏の高校野球は、大正4年に豊中グラウンドから始まった。この大会は箕面有馬電気軌道(阪急電鉄)が大阪朝日新聞社に開催を薦めたもの。小林一三は職業野球への関心も高く、日本で初めての職業野球チーム、日本運動協会が関東大震災で解散すると受け皿となる宝塚運動協会を設立。この球団も昭和恐慌を受け、解散を余儀なくされたが、後年、阪急がプロ野球経営に乗り出す礎となった。

昭和9年、大日本東京野球倶楽部(読売ジャイアンツ)、昭和10年 大阪タイガース(阪神タイガース)、昭和11年 大阪阪急野球協会(阪急ブレーブス)が設立され、新聞社4チーム、鉄道会社3チームの7チームでプロ野球がスタート。昭和13年、阪急・阪神の薦めで南海が加わり、戦後、昭和24年 近鉄もプロ野球経営に興味を示し、球団を設立した。

企業のステイタスと広告塔の役目を果たしてきたプロ野球球団も、時代の変化とともに球団を持つべき企業の業種が変わってきた。新聞社や鉄道会社から金融やIT企業などが増えた。また、球団譲渡とともに地方に分散することとなり、プロ野球の広域化と地域密着化が進むことになった。

【結果】・野球の発展に関わった大阪の企業、企業家、職業野球誕生と企業家

- ・経営環境の変化とプロ野球球団保有企業の変遷
- ・野球殿堂入りした大阪の企業家、野球の聖地を巡る街あるき

データでみる、大阪人は野球好き、大阪は「野球王国」

ソニー生命保険(株)が、2015年11月9日～11月16日の8日間、全国の20歳～59歳の男女に対し、「生活意識調査」をインターネットリサーチで実施し、2,350名の有効サンプルの集計結果。

特定のスポーツが盛んな都道府県を〇〇(スポーツ名)王国と表現することがある。国内の2大プロスポーツである野球とサッカー、そして、2015年注目を集めたラグビーについて、全回答者(2,350名)に、どこの〇〇王国だと思うか聞いたもの。

◆「野球王国」と思う都道府県【第一回答】 ◆「サッカー王国」と思う都道府県【第一回答】 ◆「ラグビー王国」と思う都道府県【第一回答】
 全体(n=2350) ※上位10都道府県表示 全体(n=2350) ※上位10都道府県表示 全体(n=2350) ※上位10都道府県表示

順位	都道府県	%	順位	都道府県	%	順位	都道府県	%
1位	大阪府	20.9	1位	静岡県	41.3	1位	大阪府	12.2
2位	東京都	13.9	2位	千葉県	6.0	2位	東京都	11.3
3位	神奈川県	8.4	3位	東京都	5.9	3位	福岡県	3.9
4位	広島県	4.5	4位	埼玉県	5.3	4位	香川県	3.0
5位	福岡県	4.2	5位	神奈川県	5.2	5位	静岡県	2.7
6位	北海道	3.7	6位	大阪府	2.1	6位	京都府	2.5
7位	兵庫県	3.6	7位	広島県	1.3	7位	埼玉県	1.9
8位	宮城県	2.9	8位	北海道	1.1	8位	埼玉県	1.9
9位	愛知県	1.9	9位	茨城県	0.9	9位	北海道	1.7
10位	愛知県	1.5	10位	青森県	0.8	10位	兵庫県	1.6

1位「大阪府」(20.9%)、2位「東京都」(13.9%)、3位「神奈川県」(8.4%)、4位「広島県」(4.5%)、5位「福岡県」(4.2%)となるなど、9位の「愛知県」(1.9%)までは、プロ野球球団(NPB)の本拠地がある都道府県となった。

1

大阪はプロ野球出身者が断トツの1位

2019年 都道府県別プロ野球選手出身地ランキングを見ると、1位は圧倒的91人の大阪断トツの人口を誇る東京は4位。

1球団の支配下選手は70名なので、大阪出身者だけで1球団できることになる。

プロ野球出身者数が多いことは野球が盛んで、アマチュアのレベルが高いことを表している。

【都道府県別 プロ野球選手出身地連キング】

1位	大阪	91人
2位	神奈川	65人
3位	福岡	57人
4位	東京	54人
5位	兵庫	53人
6位	千葉	41人
7位	愛知	38人
8位	埼玉	36人
9位	沖縄	35人
10位	広島	32人

プロ野球選手
1球団70名×12球団
840名

資料:2009～2018年実施のドラフトより集計

2

高校野球の優勝回数が多い大阪-大阪球児の野球レベルが高い

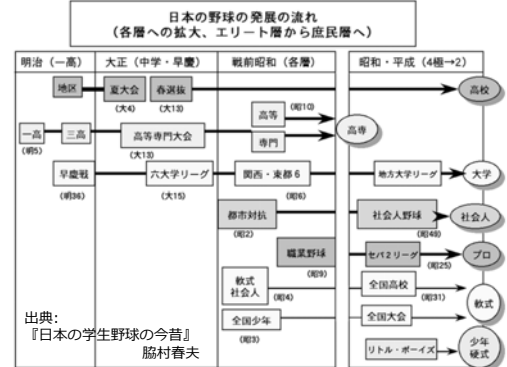
全国高等学校野球選手権大会優勝回数14回	選抜高等学校野球大会優勝回数11回
28回1946年 浪華商 西宮球場	14回1937年 浪華商
43回1961年 浪商 1959校名変更 尾崎行雄	21回1949年 北野 唯一の公立校
45回1963年 明星 甲子園西宮併催	27回1955年 浪華商
50回1968年 興国 初出場初優勝	53回1981年 PL学園
60回1978年 PL学園 逆転のPL	54回1982年 PL学園
65回1983年 PL学園 桑田真澄	59回1987年 PL学園
67回1985年 PL学園 桑田真澄	62回1990年 近大付
69回1987年 PL学園 野村弘樹	65回1993年 上宮
73回1991年 大阪桐蔭 初出場初優勝 創部4年目	84回2012年 大阪桐蔭
90回2008年 大阪桐蔭 17-0最多得点	89回2017年 大阪桐蔭 大阪決戦
94回2012年 大阪桐蔭 藤波晋太郎	90回2018年 大阪桐蔭
96回2014年 大阪桐蔭	愛知(11回)、兵庫・神奈川(6回)
100回2018年 大阪桐蔭 柿木蓮	春夏連覇 1987年PL学園
101回2019年 履正社	春連覇 1981-82年PL学園
愛知(8回)、和歌山・広島・東京・兵庫・神奈川(7回)	2012年大阪桐蔭
	2018年大阪桐蔭

3

野球は学生野球から広がった

「午後から三田(慶応運動場)にゆく 慶応と早稲田とベースボールの競技を見て 中々盛大で秩序アルには驚いた 見るもので芝居と言はず角力と言はず是程面白いものは又と世界にあるまい、慶応の〇、早稲田三点で三田が負けたが残念だ」

『小林一三日記』明治39年(1906年)11月3日から抜粋



4

全国高等学校野球選手権大会は大阪・豊中運動場から始まった

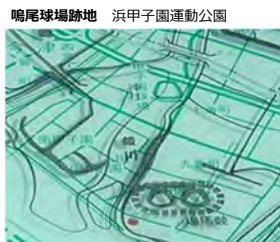
大正2年、豊中運動場を開設した箕面有馬電気軌道は、大阪朝日新聞社に全国の中等学校野球大会を提案、全国中等学校優勝野球大会が始まった。テント張りの数百人程度の観覧席が、婦人観覧席として設けられた。豊中運動場では、学生野球のほか、社会人野球、大阪毎日新聞社主催の陸上競技大会やラグビーフットボール大会も開催された。かつての豊中運動場北側には「高校野球発祥の地記念公園」が整備されており、歴代優勝校・準優勝校の名前がプレートに刻まれている。



5

→鳴尾球場 1917年(T6) 第3回

→第9回 全国中等学校優勝野球大会は人気を集めたが、豊中運動場では1面しか野球場が取れない為、阪神電気鉄道が鳴尾競馬場の中に2面の野球場が作り、第3回大会から鳴尾球場で開催された。しかし、観客スタンドは木製で収容人数も少なく、本格的な野球場の建設が求められた。



6

→甲子園球場(T12 第10回～)
第28回は西宮球場、第45回大会は甲子園球場と西宮球場と2会場で開催

大阪朝日新聞社からの要請を受け、阪神電気鉄道は大正12年、本格的な野球場、甲子園大運動場を開設した。第10回大会から、戦時中の中止や戦後のGHQ接収を除き、高校野球は甲子園球場で開催されている。



1994年8月に朝日新聞社・毎日新聞社・高野連が甲子園球場70周年を記念して建てた「甲子園大運動場」

7

職業野球の誕生と企業家

1871(明治5)年**ホーレス・ウィルソン**が、当時の第一大学区第一番中学(現 東京大学)で生徒に「ベースボール」を教えた

1878(明治11)年**平岡燕(ひろし)**が新橋停車場内に日本初の球場をつくり、日本初の本格的野球チーム「新橋アスレチック倶楽部」を設立

大学や企業で野球チームが結成される→
早稲田大学/慶応義塾大学/阪神電鉄野球部/大阪毎日野球団

「運動場を持つ鉄道会社、たとえば東京ならば、京成電車、東横電車、関西ならば、阪神の甲子園、阪急の宝塚、京阪の寝屋川、大阪鉄道の何とかいう運動場(*藤井寺)等立派な野球場を持つ足等の鉄道会社が各会社専属の運動場にて、毎年春秋二期にリーグ戦を執行する、そして優勝旗の競争をする、斯くすることによって各電鉄会社は相当の乗客収入と入場料と得るのであるから、野球団の経営費を支出し得て、或は余剰があるかもしれない。」小林一三『私の生き方』「職業野球団打診」から引用

大正5年、小林一三は、豊中運動場で冬季練習をしていた早稲田大学野球部の指導者、河野安通志に日本での職業野球の可能性について打診した→河野は**時期早尚**と答えた

1920(大正9)年河野安通志が日本初のプロ野球チーム、**日本運動協会(芝浦協会)**設立

1923(大正12)年**関東大震災**の影響で芝浦球場が使えなくなり、日本運動協会解散

1924(大正13)年解散した日本運動協会を継承する形で、小林一三は**宝塚運動協会**設立

昭和金融恐慌後に続くプロ球団がでなかった/阪急は協会の維持に年間3万円を負担
大阪毎日野球団が経営不振で解散/宝塚運動協会 1929(昭和4)年7月31日解散

9

経営環境の変化とプロ野球球団保有企業の変遷

昭和25年の球団保有企業は、鉄道会社7社、新聞社4社、映画会社2社。当時の時代背景としては、戦後の復興時期であり、インフラ整備の中心として鉄道業界は右肩上がりの時代。さらに、球団を保有し、沿線にある球場で試合を行うことで鉄道の業績アップにもつなげる狙いもあった。この年から、毎日新聞社の参入により、セ・パの2リーグ制となった。

[1950年]-2リーグ15球団

鉄道:7社
(パリーグは7球団中5球団)
新聞社:4社
映画会社:2社
食品:1社
個人:1社(広島カープ)

セ・リーグ-8球団

松竹ロビンス(松竹)
中日ドラゴンズ(中日新聞)
読売ジャイアンツ(読売新聞)
大阪タイガース(阪神電気鉄道)
大洋ホエールズ(大洋漁業)
西日本パイレーツ(西日本新聞)
国鉄スワローズ(国鉄)
広島カープ

パ・リーグ-7球団

毎日オリオンズ(毎日新聞)
南海ホークス(南海電気鉄道)
大映スターズ(大映)
阪急ブレーブス(京阪神急行電鉄)
西鉄クリッパース(西日本鉄道)
東急フライヤーズ(東京急行電鉄)
近鉄パールズ(近畿日本鉄道)

11

高校野球発祥の地

(山本球場跡)
名古屋市昭和区

大阪毎日新聞社が主催する選抜高校野球の記念すべき第1回大会は、名古屋市の「山本球場」で開催された。第2回大会から、甲子園球場に場所を移し、今に至っている。



大阪毎日新聞社は、豊野町(寝屋川市)に広大な運動場を持つ京阪電気鉄道に、甲子園大運動場に負けないような本格的な野球場の建設を打診した。しかし、当時、新京阪電気鉄道の建設等に多額の投資をしていた京阪は建設を断念した。



寝屋川球場跡地 寝屋川市豊野町

8

大正6年、9年に読売新聞社が大リーグから選手を招致、日米野球を開催
日本でもプロ野球という動きが高まる

1934(昭和9)年12月に**大日本東京野球倶楽部**(読売ジャイアンツ)が結成
(1936年 東京巨人軍に改称)

読売新聞社は、数球団で職業野球リーグを結成したいと考えていた
特に東京市・大阪市・名古屋市の三大都市圏で試合を行うことを目指していた

1935(昭和10)年12月10日に商号「株式会社大阪野球倶楽部」、球団名**大阪タイガース**が発足

1935年に大日本東京野球倶楽部を結成したのを受け、小林一三はアメリカに出張中にワシントンから電報で球団設立を指示し、1936年1月23日に**大阪阪急野球協会**が設立
1936(昭和11)年2月5日、大日本東京野球倶楽部、大阪タイガースの2球団を始め、名古屋軍(新愛知新聞社)、東京セネターズ(西武鉄道)、阪急軍(阪急電鉄)、大東京軍(国民新聞社)、名古屋金鉱軍(名古屋新聞社)の7球団で**日本職業野球連盟**が設立、4月に第1回のリーグ戦が開催

新聞社4チーム、鉄道会社3チームで、プロ野球がスタート

1938(昭和13)年3月1日南海鉄道は**南海軍**(南海野球株式会社)を結成
阪神電気鉄道、阪神急行電鉄(阪急)に続く3番目のプロ野球球団となった。阪神の細野謙(のぼる)や阪急の小林一三が南海の寺田甚吉社長と小原英一取締役役に設立を勧め、寺田のツルの一声で決まったとされている

1949(昭和24)年、近畿日本鉄道をスポンサーとする**近鉄パールズ**を結成。近鉄は大阪電気軌道時代よりラグビー部を有していたが、後の**佐伯勇**の逸話によれば「ラグビーでは儲からないから」と当時隆盛を極めていた野球経営に食指を動かしたという

10

現在のプロ野球球団保有企業を見ると、鉄道会社2社、新聞社2社となり、変ってITや携帯、リースなど半世紀前にはなかった業種の企業が見られる。

[2020年]-2リーグ12球団(1958～)

食品関係:1社→3社
鉄道:7社→2社
新聞社:4社→2社
IT企業:3社
金融:1社
個人:1社(広島東洋カープ)

セ・リーグ

中日ドラゴンズ(中日新聞)
読売ジャイアンツ(読売新聞)
阪神タイガース(阪神電気鉄道)
横浜DeNA ベイスターズ(DeNA)
東京ヤクルトスワローズ(ヤクルト)
広島東洋カープ

パ・リーグ

千葉ロッテマリーンズ(ロッテ)
福岡ソフトバンクホークス(ソフトバンク)
オリックスバファローズ(オリックス)
埼玉西武ライオンズ(西武)
北海道日本ハムファイターズ(日本ハム)
東北楽天ゴールデンイーグルス(楽天)

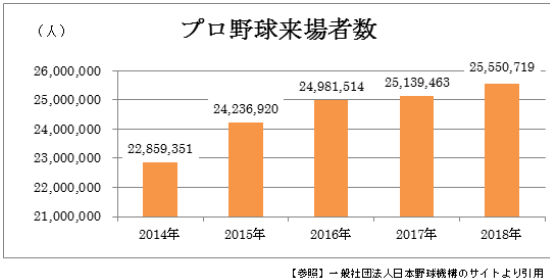
1950年2リーグ発足時と
保有会社が同じ球団

中日・読売・阪神・広島

*パリーグは保有企業がすべて入れ替わった

12

かつてプロ野球のシーズンが始まると、月曜日の移動日以外は毎日テレビで中継が行われるのが普通だった。今、地上波ではプロ野球の中継はされていないが、人気なくなっただけではない。
地上波のテレビ中継の場合はプロ野球中継をやっている、好きな球団の中継をいつもやっているとは限らない。BSチャンネルやスポーツ専用チャンネルの登場により、自分が応援している球団をいつでも見ることができるようになった。
一時期、プロ野球の来場者数は低迷した時期も見られたが、プロ野球全体での観客数は増加している。特に、パリーグの増加が著しい。
また、1試合当たりの平均観客数も3万人を超え、これは米リーグの1試合平均観客数より多くなっている。



13

藤井寺球場(S3-H17)→四天王寺学園・分譲マンション

昭和3年 大阪鉄道が建設した「藤井寺球場」。近鉄バファローズの本拠地として使われたが、球場跡地は学校と分譲マンションになった。球場跡地には「白球の夢」が立てられている。
昭和25年に誕生した「日本生命球場」は学生や社会人野球の聖地として、また近鉄バファローズの準本拠地として親しまれた。収容人数2万5000人と少ないことから、この球場で日本シリーズは開催されなかった。老朽化で1997年に閉鎖、取壊され、商業施設になった。



彫刻家:玉野勢三 白球の夢



日本生命球場(S25~H9)
→もりのみやキューズモールBASE

15

野球殿堂(特別表彰)入りした大阪の企業家たち

東京ドームに設けられた「野球殿堂」には野球の発展に寄与した人物に対して功績をたたえ顕彰している。大阪から8人の企業家が野球殿堂入りしている。

- 阪急電鉄 *小林一三…宝塚野球協会、阪急野球団を結成した実業家
- 村上 實 …小林一三オーナーの命を受け阪急球団創設
パリーグ理事長、能勢電動元社長、会長
- 阪神電気鉄道 野田誠三…甲子園球場の設計工事を監督した功労者、元社長、会長
- 近畿日本鉄道 *佐伯勇… 野球をこよなく愛し近鉄オーナーを36年務めた
- 田村駒 田村駒治郎…セ・リーグ初代王者の名物オーナー(松竹ロビンス)
- 日本ハム *大社義規…野球とチームを愛した日本ハム初代オーナー
- 美津濃 *水野利八…美津濃商店を創設し、用具の生産・改良に尽力
- 朝日新聞社 *村山龍平…全国中等学校優勝野球大会を創設

*大阪企業家ミュージアムの105人の企業家のうち、野球殿堂入りしている企業家が5名いる。
球団を保有していた大阪の4つの鉄道会社のうち、南海電気鉄道だけが戦前から球団を持っていたにもかかわらず、企業家が野球殿堂入りしていない。
元南海ホークスのファンの方皆さん、「今日のパリーグ、いや今日の日本のプロ野球を牽引していると言っている、ソフトバンクホークスがあるのは、かつての南海ホークスがあつてこそ」、ということを胸を張って言って欲しい。

17

消えゆく球場

大阪スタジアム(S25-H10) →なんばパークス

球団保有企業の変化と共に球団の地方移転がおこなわれ、かつて本拠地だった球場は使われなくなり、商業施設、学校、住宅などの都市施設に姿を変えていった。
大阪スタジアムは複合施設なんばパークスに変わり、パークスガーデンには、南海ホークスに在籍した元選手をはじめ旧大阪球場にゆかりが深い人物の手形のモニュメントが設置されている。南海ホークスメモリアルギャラリーにはギャラリーには優勝カップやトロフィー、そして賞状などが展示されている。



14

阪急西宮球場(S12~H14) →西宮ガーデンズ西宮ギャラリー

阪急ブレーブスの本拠地として、昭和12年に完成した本格的な球場だった。ブレーブスがオリックスに売却された後は、西宮スタジアムと改称され、様々なスポーツやイベントに使われた。
2002年に閉場、解体され、商業施設、西宮ガーデンとなった。ガーデンズの西宮ギャラリーにはブレーブスの優勝旗やカップ、西宮球場のジオラマが展示されている。



16

野球の聖地を巡る街あるき

かつて名勝負がおこなわれた球場跡や球史に残る聖地を懐かしみ、訪ねる野球ファンも多い。各地に残る野球場跡地やゆかりの場所に顕彰碑やモニュメント、説明板を整備して、聖地を巡る「野球の聖地を巡る街あるき」を提案してはどうだろうか。
野球ファンにとどまらず、住んでいる街の歴史を見直したり、街おこしの機会になるのではないと思う。

- 香榎園運動場(M43-T2)-関西初の国際試合が開催。阪神電気鉄道が野球との初めての出会い
- 豊中運動場(T2-T10)-高校野球発祥の地(夏の選手権1~2回)、高校ラグビーフットボール大会発祥の地、高校野球発祥の地記念公園
- 鳴尾運動場(T5-T13)-鳴尾競馬場に作られた高校野球の聖地(夏の選手権3~9回)
- 寝屋川球場(T11-S17)-京阪運動場、中等野球大阪大会、選抜野球開催球場候補地
- 宝塚球場(T11-S12)-関西初のプロ野球チーム宝塚運動協会、阪急ブレーブスの初試合、初期の本拠地
- 甲子園球場(T13)-高校野球の聖地(春・夏)、阪神タイガース本拠地、甲子園歴史館
- 藤井寺球場(S3-H17)-近鉄バファローズの本拠地
- 西京極球場(S7-)-松竹ロビンス・近鉄バファローズ・阪急ブレーブスの準本拠地、京都野球殿堂
- 堺大浜球場(S9-)-初期の南海ホークス本拠地
- 西宮球場(S12-H14)-阪急ブレーブスの本拠地、阪急ギャラリー
- 中百舌鳥球場(S14-H13)-初期の南海ホークスの本拠地、二軍練習場
- 衣笠球場(S23-S44)-立命館大学野球部の専用球場。松竹ロビンス・洋松ロビンスの本拠地
- 大阪スタジアム(S25-H10)-南海ホークスの本拠地、南海ホークスメモリアルギャラリー
- 日生球場(S25-H9)-アマチュア野球・社会人野球の聖地、近鉄バファローズ準本拠地
- 京セラドーム大阪(H9-)-オリックスバファローズの本拠地、大阪ガスの工場跡地
- :顕彰碑や説明板のある施設や球場跡

18

実は日本マラソン発祥の地 大阪 ～1909年マラソン大競走～

高木 昌之

【目的】

『2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会』に向け、俄然注目されるようになったマラソン。2019年（平成31年・令和元年）から2020年（令和2年）にかけても、マラソン選手が主役のNHK大河ドラマの放映、マラソングランドチャンピオンシップ（MGC）での東京五輪代表決定、東京五輪マラソン競技の突然の札幌移転、厚底シューズ効果による劇的な記録更新、更には大阪にゆかりのある選手の五輪女子マラソン代表内定など、話題には事欠かない。こうした状況を鑑み、大阪とマラソンとの関わりについて、今一度見直す必要性を感じた。

大阪では現在行われている『大阪マラソン』『大阪国際女子マラソン』等以外にも数々のマラソン大会が開かれてきた。中でも、日本初のマラソンと言われ1909年（明治42年）に神戸～大阪間で開催された『マラソン大競走』に焦点を当ててみたいと考えた。なぜなら、スタート地点の神戸が既に「日本マラソン発祥の地」を名乗っているのに対し、ゴール地点の大阪ではその存在すら殆ど知られていないからである。

研究を通じ、大阪もまた「日本マラソン発祥の地」であることを発信し、大阪人のスポーツへの関心をより一層高めていきたい。

【内容】

『マラソン大競走』を、その開催のきっかけとなった1908年の「ロンドン五輪」まで遡り、当時の新聞記事等から正確に復元すると同時に、コースの現況も確認する。

その過程で、『マラソン大競走』と大阪との関係性を考察し、大阪が「日本マラソン発祥の地」に相応しいかどうかを検証する。

【結果】

『マラソン大競走』では、スタート地点の神戸より、むしろゴール地点の大阪に重きを置いて開催されていたことが明らかとなった。コースの距離に不足のあることが判明した際も出発点の変更であっさり解決が図られたことや、大会に関するセレモニーのほとんどが大阪で開催されたことなどがその理由である。

「日本マラソン発祥の地」としては、時間軸という観点ではスタート地点の神戸が、大会という観点では大阪が、それぞれ相応しいとの結論に達した。

また、当時のコースを正確に復元していく過程で、公表されていた約31.7kmよりも実距離の方が長かった可能性のあることも判った。もしこれが正しければ、当時の日本人は初マラソンで世界に伍する好記録を出していたということになる。

1. 日本最初のオリンピック報道

日本初のマラソンと言われる『マラソン大競走』が行われる前年の1908年（明治41年）に『ロンドンオリンピック』が開催された。もちろん日本人選手はまだ参加していない。

後に衆議院議員や俳人として活躍する相島勘次郎は、大阪毎日新聞社通信部長時代、博覧会の取材に訪れていたロンドンでこのオリンピックを目の当たりにし、大いに興奮した。とりわけマラソンの魅力に強く取り憑かれた。

相島は、帰国後の1908年（明治41年）9月7日（月）から12日（土）まで（8日（火）を除く）の5回にわたり、「大阪毎日新聞」の紙面に「マラソン競走」と題し、ロンドンオリンピックマラソン競技のことを書いている。『ロンドンオリンピック』の概要やマラソンの歴史紹介を織り交ぜながら、猛暑により棄権者が続出したことや、「ドランドの悲劇」と呼ばれるゴール直前での出来事、街の盛り上がりなどが、臨場感をもって描写されており、その上で「日本も一等国に列するには国際五輪委員会に加わり選手を送るべき」と結論付けている。

これこそが我が国最初のオリンピック報道である。

この報道がひとつの契機となり、「次回のマラソン国際的大競走に日本選手を出す準備」として、大阪毎日新聞社が『マラソン大競走』を開催することになるのである。

2. 日本初のマラソン大会『マラソン大競走』の概要

『マラソン大競走』は、1909年（明治42年）3月21日（日）に開催された。“阪神間20哩（マイル）長距離競走”の別称のとおり、神戸湊川埋立地～新淀川西成大橋東端の約32kmで行われた。

申込者は408名にのぼったが、書類選考で残った151名を対象に3月13日（土）に中の嶋公會堂で体格検査（131名が参集）を行い128名に絞り込んだ。翌14日

（日）には、鳴尾關西競馬俱樂部會場で10哩（約16km）の予選競走会を行って本選参加者20名（各組上位5名×4組）を選抜した。

予選競走会には約6万人もの観衆が押し寄せ、關西競馬俱樂部始

まって以来の入場者数となった。予選第1位は1時間4分35秒を記録した19歳の神戸市学生の井上輝二。ちなみに、NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」に登場した日本初の五輪選手・三嶋彌彦は、下馬評は高かったもののろ組6位で予備選手となり、本選に進むことはできなかった。

3月21日（日）には『マラソン大競走』の本選が行われ、20名の選手は11時30分33秒に出発点の神戸湊川堤防をスタート。途中、6哩（約10km）地点の御影では兵庫県在郷軍人の加嶋政義が先頭に立ったものの、11哩（約18km）地点の西宮からは岡山県在郷軍人の金子長之助がトップを守り続け、2時間10分54秒で新淀川の決勝点にゴールイン。最終的に18名が完走、2名が途中棄権した。



マラソン大競走記念繪葉書（筆者所蔵）
三枚一組で販売されたもので、本選ではなく鳴尾關西競馬場で行われた予選の写真と思われる。

3. 大阪が発祥の地と名乗るに相応しい理由

現在、神戸市役所前に「日本マラソン発祥の地神戸」の記念碑が建てられ、「日本マラソン発祥の地」は神戸ということになっている。日本で「マラソン」という名称を初めて使った大会がこの『マラソン大競走』と言われており、時間軸で見ればそのスタート地点が湊川埋立地であったことから、これは正しいと言える。

だが、大会そのものは大阪に重点を置いたものであった。

①ゴール地点ありきの大会

大会8日前の3月13日（土）に、神戸方のスタート地点がそれまで公表されていた元居留地東遊園地から湊川埋立地に変更された。改めてきちんと測量し直したところ、予定していた20哩に2哩20鎖（チェーン）不足していることが判明したからである。1哩は約1,609m、1鎖は約20mだから、約3.6km足りなかったことになる。一方、大阪方のゴール地点である新淀川西成大橋からの変更については議論された形跡すらない。

当時の状況をみると、1908年（明治41年）12月に西成大橋が竣工し、翌1909年（明治42年）6月に淀川改良工事竣工式が行われている。大阪にとって大変重要でかつ国家的大事業でもあった新淀川開削のお披露目が、この大会が果たすべき役割のひとつだったことは明白である。ゴール地点を動かすという選択肢は元々なかったのである。

1909年（明治42年）3月2日（火）付「大阪毎日新聞」では、「虹のごとき長橋上、花やかなるユニホーム着けたる優勝選手が奔馬空を切るの概を以て決勝点に入らんとする刹那の壮観」と、西成大橋が到着地点として絶好の場所であることを強調している。同月22日（月）付「大阪毎日新聞」では、これこそがまさに一番欲しかった画だと言わんばかりに、西成大橋をトップで走りゴールへ向かう金子長之助の雄姿が堂々と掲載されている。

②多彩なセレモニーの開催

『マラソン大競走』では競技以外に様々なセレモニーも行われた。

神戸では、スタート時に、兵庫県知事の演説と神戸市長のテープカットが行われ、楽隊が演奏し数十発の花火が打ち上げられた。

一方、大阪でも、ゴール時に軽気球と花火の打上げが行われたが、それだけにとどまらず引き続き多種多彩な催しが繰り広げられた。

選手たちは、最寄りの淀川駅から梅田駅まで阪神電鉄の花電車に乗車。梅田からは大阪市電の花電車に乗り換え、難波下車後は人力車に乗って中之島まで楽隊付きのパレードを行った。その後、中之島の大阪ホテル大広間で祝宴が催されたのである。

以上2点から、競技においてもセレモニーにおいても大阪中心の大会であったと言えることができる。『マラソン大競走』を“マラソン大会”というイベントとして捉えるなら、まさに「日本マラソン発祥の地 大阪」なのである。

4. 記録的にも素晴らしい大会

これまで日本初のマラソン大会ということだけがクローズアップされてきた『マラソン大競走』であるが、実は記録的にも素晴らしい大会であった。

“阪神間20哩長距離競走”と言われるこの大会。正確には19哩56鎖95環（約31.7km）だったと言われている。ところが、今回そのコースを、1909年（明治42年）から1910年（明治43年）にかけて測量された大日本帝國陸地測量部の「2万分1正式図」を使って完全復元してみたところ、実際はもう少し長かったのではないかという疑念が浮かび上がった。

地図上で計測すると約 32.5km (20 哩 16 鎖 95 環) もある。マラソンの距離計測には最短コースを測るなどのルールがあるが、その誤差を勘案しても長い。大会直前の 3 月 13 日に距離不足によりスタート地点を変更するなど、当時の計測技術には不安があり、誤りがあった可能性は排除できない。

ここで、当時の世界のマラソンの記録との比較をしてみたい。距離、季節、コースがまちまちで単純比較はできないが、五輪など主な大会の記録を時速で表すと下表の通りである。ちなみに、現在の 30km ロードレースとマラソンの速度差は、日本記録では僅か 1.4%。世界記録では逆にマラソンの方が速いくらいである。(30km ロードレース：日本記録 1 時間 28 分 00 秒・世界記録 1 時間 26 分 45 秒／マラソン：日本記録 2 時間 05 分 29 秒・世界記録 2 時間 01 分 39 秒)

もし実際のコースが 32.5km あったと仮定すると、優勝した金子長之助は時速 14.9km を出していたことになり、直近の『ロンドンオリンピック』で優勝したトーマス・ヒックスの時速 14.4km を大きく上回っている。1911 年 (明治 44 年) に『ストックホルムオリンピック大会予選会』で金栗四三が出した時速 15.8km を含め、日本長距離陸上界は相当な潜在能力を持って世界に臨んだことが窺える。

20 世紀初頭開催の主要マラソン優勝者等時速一覧

記録年	大会	開催国 開催場所	順位	選手名	国籍	記録 (h:m:s)	距離 (km)	時速 (Km/h)
1909	マラソン大競走	神戸ー大阪間	優勝	金子長之助	日本	2:10:54	31.723	14.54
							32.528	14.91
1904	セントルイス五輪	アメリカ	優勝	トーマス・ヒックス	アメリカ	3:28:53	40.000	11.49
1908	ロンドン五輪	イギリス	優勝	ジョニー・ヘイズ	アメリカ	2:55:18	42.195	14.44
1912	ストックホルム五輪	スウェーデン	優勝	ケネス・マッカーサー	南アフリカ	2:36:54	40.200	15.37
1920	アントワープ五輪	オランダ	16 位	金栗四三	日本	2:48:45	42.750	15.20
1911	ストックホルム五輪 予選会	羽田運動場	優勝	金栗四三	日本	2:32:45	40.234	15.80

5. 待ち望まれる「日本マラソン発祥の地 大阪」の碑の建立

『マラソン大競走』開催から 17 年経った 1926 年 (大正 15 年)、西成大橋は役目を終え、すぐ上流側に淀川大橋が架けられた。その淀川大橋は現在大規模修繕工事中である。完工 (2020 年 (令和 2 年) 8 月末予定) した暁には、この素晴らしい大会を顕彰し、淀川大橋東詰すぐ下流側の以前西成大橋が架けられていたあたりに、「日本マラソン発祥の地 大阪」の碑をぜひ建立してもらいたいものである。



「日本マラソン発祥の地 大阪」の碑
(イメージ)

◆参考文献等

- 『大阪毎日新聞』(1908~1909) 大阪毎日新聞社、2 万分 1 正式図『神戸』(1913) 大日本帝國陸地測量部、2 万分 1 正式図『御影』『西ノ宮』『大阪西北部』(1911) 大日本帝國陸地測量部 Web (2020/02/29 アクセス)
- 毎日新聞オリパラこぼれ話<<https://mainichi.jp/articles/20191126/k00/00m/050/152000c>>
- 時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」<<http://ktgis.net/kjmapw/>>
- 日本陸上競技連盟公式サイト<<https://www.jaaf.or.jp/>>
- Track and Field all-time Performance<<http://www.alltime-athletics.com/>>
- SPORTS REFERENCE OLYMPIC SPORTS<<https://www.sports-reference.com/olympics/>>
- 金栗四三生家記念館<<http://www.kanakurishiso.jp/>>
- 公益社団法人日本スポーツ協会<<https://www.japan-sports.or.jp/>>
- 国道 2 号線淀川大橋床版取替他工事情報発信サイト<<http://yodogawa-ohashi.com/index.html>>

マラソン大競走《1909年（明治42年）3月21日（日）開催》コース図およびレース状況（1）【現兵庫県神戸市および芦屋市部分】

大阪府立大学研究推進機構大阪検定客員研究員 高木 昌之

レース状況（1）

予選競走および出発点						神戸電車停留場		御影（六哩）				芦屋永保橋			
出発点からの推定距離（1位選手の时速）						1.2km		9.6km（湊川御影間 11.7km/h）				14.6km			
全体順位	組別順位	氏名	年齢	職業	目印番号	出発時刻（時・分・秒）	順位	氏名	変動	順位	氏名	通過時刻（時・分・秒）	変動	順位	氏名
1	い1	井上 輝二	19	神戸市学生	3	11.30.33	1	井上 輝二	↑	1	加嶋 助義	12.20.00	↑	1	井上 輝二
2	は1	加嶋 助義	26	兵庫県在郷軍人	10	11.30.33	2	加嶋 助義	↓	2	井上 輝二	12.20.00	↑	2	金子長之助
3	い2	金子長之助	27	岡山県在郷軍人	4	11.30.33	3	金子長之助	↑	3	菅野 新七	12.21.00	↓	3	加嶋 助義
4	は2	富士谷彌平	30	徳島県商人	17	11.30.33	4	富士谷彌平	→	4	富士谷彌平	12.21.00	→	4	富士谷彌平
5	ろ1	関口 義夫	19	姫路師範選手	13	11.30.33	5	菅野 新七	↑	5	小路 五一	12.21.00	↓	5	菅野 新七
7	に1	佐藤 朗	25	大分師範学生	5	11.30.33	6	小路 五一	↑	6	関口 義夫	12.21.20	↓	6	小路 五一
8	い4	野中 良民	25	京都医科大学学生	12	11.30.33	7	関口 義夫	↓	7	金子長之助	12.21.50	↓	7	関口 義夫
9	い5	宮脇浅次郎	29	大阪府農業	11	11.30.33	8	長阪嶋三郎	→	8	長阪嶋三郎	12.22.00	→	8	長阪嶋三郎
10	ろ2	福田加壽衛	22	岡山学生	20	11.30.33	9	福田加壽衛	→	9	福田加壽衛	12.22.10	→	9	福田加壽衛
11	は3	菅野 新七	27	東京高等師範学生	9	11.30.33	10	佐藤 朗	↑	10	関口 吉雄	12.22.50	↑	10	佐藤 朗
12	ろ3	林 鎌次郎	18	愛知第一中学選手	7	11.30.33	11	野中 良民	↓	11	佐藤 朗	12.23.00	↑	11	野中 良民
13	ろ4	古橋猶三郎	18	愛知第一中学	2	11.30.33	12	佐野亥之助	→	12	佐野亥之助	12.23.50	→	12	佐野亥之助
14	に2	小路 五一	22	姫路師範学生	16	11.30.33	13	奥田 茂平	↓	13	野中 良民	12.23.58③	↑	13	奥田 茂平
15	ろ5	奥田 茂平	24	大阪タイムス社	6	11.30.33	14	古橋猶三郎	↓	14	奥田 茂平	12.24.00	↑	14	古橋猶三郎
16	に3	関口 吉雄	21	茨城学生	8	11.30.33	15	林 鎌次郎	↑	15	平林四三衛	12.24.20	↑	15	林 鎌次郎
17	に4	長阪嶋三郎	24	愛知県知多教育会選手	15	11.30.33	16	平林四三衛	↑	16	宮脇浅次郎	12.24.40	↓	16	平林四三衛
18	は4	土田新太郎	23	東京法科大学学生	19	11.30.33	②	関口 吉雄	↓	17	古橋猶三郎	12.24.50	↓	17	関口 吉雄
19	は5	東野 丈夫	24	大分師範	1	11.30.33	②	宮脇浅次郎	↓	18	林 鎌次郎	12.24.50	↓	18	宮脇浅次郎
20	に5	平林四三衛	27	愛知県知多教育会選手	18	11.30.33	②	東野 丈夫	→	19	東野 丈夫	12.37.00	→	19	東野 丈夫
①	い6	佐野亥之助	22	大阪成器商業卒業	14	11.30.33	②	土田新太郎	↓	×	土田新太郎	都賀浜村で落伍			

- ①予選競走でい組3位（全体6位）だった土平知多一（25歳、愛知県商業）が辞退したため予備選手い組第一候補の佐野亥之助が繰り上げ出場。
- ②1909年（明治42年）3月28日付大阪毎日新聞「選手競走表」では、東野丈夫、宮脇浅次郎、関口吉雄は「-」、土田新太郎は「落伍」と記載されている。
- ③1909年（明治42年）3月28日付大阪毎日新聞「選手競走表」では「12.23.08」と記載されているが、順位からすると誤記と思われるため推定。



マラソン大競走《1909年（明治42年）3月21日（日）開催》コース図およびレース状況（2）【現兵庫県西宮市および尼崎市・大阪府大阪市部分】

大阪府立大学研究推進機構大阪検定客員研究員 高木 昌之



レース状況(2)

西宮(十一哩)			尼ヶ崎(十六哩)			巽橋と西成大橋との中間			西成大橋詰			決勝線					
17.8km (御影西宮間 25.3km/h)			26.4km (西宮尼ヶ崎間 12.5km/h)			29.0km			31.1km			31.7km (尼ヶ崎決勝線間 15.4km/h)			(14.5km/h)		
変動	順位	氏名	通過時刻(時.分.秒)	変動	順位	氏名	通過時刻(時.分.秒)	変動	順位	氏名	変動	順位	氏名	よみがな	到着時刻(時.分.秒)	競走時間(時.分.秒)	
↑	1	金子長之助	12.39.17	→	1	金子長之助	13.20.45	→	1	金子長之助	→	1	金子長之助	かねこ ちようのすけ	13.41.27	2.10.54	
↓	2	井上輝二	12.39.18	→	2	井上輝二	13.23.08	↑	2	小路五一	→	2	小路五一	しょうじ ごいち	13.46.16	2.15.43	
→	3	加嶋助義	12.39.20	→	3	加嶋助義	13.23.15	↑	3	富士谷彌平	→	3	富士谷彌平	ふじたに やへい	13.46.28	2.15.55	
→	4	富士谷彌平	12.39.26	→	4	富士谷彌平	13.24.00	↓	4	加嶋助義	→	4	加嶋助義	ながさか しまさぶろう	13.47.07	2.16.34	
→	5	菅野新七	12.39.29	→	5	菅野新七	13.25.20	→	5	菅野新七	→	5	菅野新七	かんの しんしち	13.47.12	2.16.39	
→	6	小路五一	12.39.29	→	6	小路五一	13.25.32	↑	6	長阪嶋三郎	→	6	長阪嶋三郎	かしま まさよし	13.48.36	2.16.39	
→	7	関口義夫	12.40.30	↑	7	長阪嶋三郎	13.26.10	↓	7	井上輝二	→	7	井上輝二	いのうえ てるじ	13.51.41	2.21.08	
→	8	長阪嶋三郎	12.42.08	↓	8	関口義夫	13.28.00	↑	8	野中良民	→	8	野中良民	のなか よしたみ	13.52.19	2.21.46	
→	9	福田加壽衛	12.42.10	→	9	福田加壽衛	13.29.10	→	9	福田加壽衛	→	9	福田加壽衛	ふるはし なおさぶろう	13.54.35	2.24.02	
↑	10	野中良民	12.43.41	↑	10	古橋猶三郎	13.30.05	→	10	古橋猶三郎	→	10	古橋猶三郎	ふくだ かずえ	13.54.50	2.24.17	
↑	11	佐野亥之助	12.44.14	↑	11	林鎌次郎	13.31.05	→	11	林鎌次郎	→	11	林鎌次郎	はやし かまじろう	13.55.24	2.24.51	
↑	12	林鎌次郎	12.44.34	↓	12	野中良民	13.31.40	↑	12	平林四三衛	→	12	平林四三衛	ひらばやし (名の読み不明)	13.56.13	2.25.40	
↑	13	古橋猶三郎	12.44.39④	↑	13	平林四三衛	13.32.30	↓	13	関口義夫	→	13	関口義夫	せきぐち よしお	13.59.44	2.29.11	
↑	14	平林四三衛	12.44.40	↑	14	佐藤朗	13.36.50	→	14	佐藤朗	→	14	佐藤朗	さとう ろう	14.03.34	2.33.01	
↓	15	奥田茂平	12.44.41	↑	15	関口吉雄	13.41.45	↑	15	東野丈夫	→	15	東野丈夫	ひがしの たけお	14.10.58	2.40.25	
→	16	佐藤朗	12.45.00	↑	16	宮脇浅次郎	13.44.29	→	16	宮脇浅次郎	→	16	宮脇浅次郎	みやわき あさじろう	14.11.52	2.41.19	
→	17	関口吉雄	12.47.10	↑	17	東野丈夫	13.44.30⑤	↓	17	関口吉雄	→	17	奥田茂平	おくだ もへい	14.13.40	2.43.07	
→	18	宮脇浅次郎	12.47.10	↓	18	奥田茂平	13.47.35	→	18	奥田茂平	→	18	奥田茂平	せきぐち よしお	14.14.43	2.44.10	
→	19	東野丈夫	12.57.20	↓	×	佐野亥之助	15哩地点で落伍						×	土田新太郎	つちだ しんたろう		途中棄権

④1909年（明治42年）3月28日付大阪毎日新聞「選手競走表」では「12.43.39」と記載されているが、順位からすると誤記と思われるため推定。

⑤1909年（明治42年）3月28日付大阪毎日新聞「選手競走表」では「13.43.30」と記載されているが、順位からすると誤記と思われるため推定。

次元を超えて愛される大阪のスポーツ ～漫画アニメからeスポーツまで～

山村 啓士

【目的】

昨今、大阪を訪れる外国人観光客が増えており、2020年1月大阪観光局の発表では、2019年1～9月までの来阪外客数は941万人と、2018年の累計1,142万人を超えることは確実である。しかし、外国人観光客が大阪に来る目的は、「買い物」「食事」がメインであり、スポーツを楽しむ方は少数である。私は日本が誇る多種多様なコンテンツを活用し、外国人を含めた観光客に、スポーツなどの大阪の魅力を伝えられるのではと考え、今回の研究において、その可能性について提言していきたい。

【内容】

まず、現在商業ベースで発行・放送されている漫画やアニメの中で、大阪が舞台になっている作品がどれだけ存在するのか調査を行った。大阪を舞台にしたスポーツ作品については、なきぼくろの「バトルスタディーズ」、さだやす圭の「なんと孫六」、水島新司の「男どアホウ甲子園」などがあるものの、数がかなり限られてしまい、作品内容や知名度から鑑みても、観光にそのまま活用することは難しいと考える。しかしながら、ドカベンシリーズに登場する坂田三吉、テニスの王子様に登場する四天宝寺中学メンバーなど、大阪出身の個性的なサブキャラクターも多く存在している。主人公でなくても、サブキャラクターが活躍する作品、また、ストーリーの展開上、大阪府内のスポーツ関連施設が登場する作品も見受けられた。

次に、eスポーツについては、大阪府内で展開されている取り組みや実際のeスポーツ大会を調査することから始めた。大会イベントにおいては、立ち止まって試合を観る方も見られたものの、観光に活用するためには、eスポーツ自体の認知度の向上や、試合対象のゲームの選定など、考慮すべき課題は多いと考える。

【結果（今後の考察、具体的なモデルコースや観光商品の提案を含む）】

これらの内容も鑑み、漫画・アニメなどのコンテンツを活用した観光『大阪・関西コンテンツゲートウェイ（案）』を提言する。VRなどの技術を活用し、その土地ゆかりのキャラクターとVR上で試合を開催。実際に訪れた観光客には、キャラクターの世界を疑似体験してもらうとともに、キャラクターが生まれた土地に触れ、大阪の文化にも興味を持ってもらうことに繋げていきたい。今後、提言をより具体化させるため、漫画・アニメコンテンツの集約ならびに施策の仕組みについて、引き続き継続していく。



次元を超えて愛される 大阪とスポーツ

～漫画アニメから Eスポーツまで～



大阪府立大学 研究推進機構
大阪検定客員研究員


山村 啓士

1 イントロダクション

- ・2010年代から、海外から来阪する観光客が年々増加する傾向。
- ・大阪で体験したこと多くは、買い物・食事・テーマパークの順で多く、スポーツに関わる事項はまだ少ない。
- ・訪れた観光地は、道頓堀・大阪城・ユニバが多数を占める一方で、京セラドームなどスポーツ関連施設を訪れる方はまだ少ない。

【2019年(1～9月)の来阪者数】
(大阪観光局2020年1月21日プレス)

【インバウンド動向調査結果2018年全期】
(大阪観光局2019年3月8日プレス)



2019年1～9月にかけて
941万人が来阪
(2018年の合計は1,142万人)

スポーツアクティビティ・スポーツ観戦等の体験数は、調査対象3931人中、140人。家お勤めしたい票、アクティビティは71%だが、観戦層は44%とかなり低い。

京セラドームなどのスタジアムを訪れた方は、調査対象3931人中、78人(京セラドーム47+長居・吹田31) 家お勤めしたい率も50%と高め。

1 イントロダクション

- ・「買い物」「食事」「テーマパーク」以外にも、大阪には魅力あるスポットや体験はありますか？
- ・この知られていない大阪の魅力を伝えるために、漫画・アニメを始めとした日本の様々なコンテンツを活用できないのか？

『クールジャパン戦略』
(2019年9月3日、内閣官房・知的財産戦略本部)



大阪に存在する多くの魅力

1つのきっかけから、より深く知ってもらう。

【目的】

- ・関西以外に在住の方や増加する訪日外国人等に向けて、マンガ・アニメなどのコンテンツを活用し、大阪・関西の魅力を伝えていく。

【目指すべき姿】


- ・漫画・アニメなどのコンテンツを通じて、大阪へ実際に来ていただく。
- ・大阪の文化に触れて、大阪の良さに気付いてもらう。

2 大阪と漫画・アニメ


大阪が舞台の漫画・アニメとは？

・日本のアニメ聖地88
「一般社団法人アニメツーリズム協会」
⇒アニメファンからの投票（国内外）とアニメ権利者・地方自治体との協議により、全国の88箇所の聖地を選定。
全世界にファンを持つ日本のアニメの力をインバウンド・地方創生に結び付けよう。

大阪府からは1作品『ハンドシェイカー』
(2017年製作・大阪市内を中心に繰り広げられる未来系バトルアクション)



大阪が舞台の漫画・アニメ作品はどれくらいあるのか？



『ハンドシェイカー』の映画『Y&S公式』の広告も現在も日本橋に設置。

2 大阪と漫画・アニメ

大阪が舞台の漫画・アニメとは？

- ①大阪が主たる舞台となっている。
- ②ストーリーの進行上、一時的に大阪・関西が舞台。
- ③サブキャラクターが、大阪出身・大阪が舞台
- ④全く違う場所が舞台、でも出身地は大阪。

【参考資料】大阪の教科書、アニメ放映履歴、Wikipediaやマンガベディアなど

- ・今回はテーマがスポーツに関する作品に絞っています。
- ・今回は、主な作品をベースに紹介しております。

2 大阪と漫画・アニメ

大阪が舞台の漫画・アニメとは？

①大阪が主たる舞台となっている。

『男どアホウ甲子園』(佐々木守・水島新司) 主人公：藤村甲子園 主な舞台：南波高校(架空の高校)	『あぶさん』(水島新司) 主人公：最浦安武(南海ホークス) 主な舞台：大阪球場・中モズ球場
『バトルスターディーズ』(なまきぼくら) 主人公：狩野英太郎(DL学園) 主な舞台：モデルとなったPL学園	『ストッパー』(水島新司) 主人公：三原心平 主な舞台：大阪ガメッツ(架空のプロチーム) 後に大阪ドリームズに改称
『神様がくれた背番号』(松浦雅実・渡辺保裕) 主人公：飛田謙吉 主な舞台：天王寺公園近辺 (ホームレスから阪神タイガース選手へ)	『なんと孫六』(さだやすま) 主人公：甲斐孫六 主な舞台：浪城高校(大阪キタの架空高校) 大阪ジョーズ(架空のプロチーム)

2 大阪と漫画・アニメ

大阪が舞台の漫画・アニメとは？


②ストーリーの進行上、一時的に大阪・関西が舞台。

『丸善インテックアリーナ大阪』 ⇒「黒子のバスケ」 インターハイの会場で登場	
『東大阪市花園ラグビー場』 ⇒「number 24」(関西大学ラグビーのリーグ戦) オープニングで登場	
『大阪城ホール』 ⇒「キン肉マン」 キン肉星王位争奪戦の会場として登場	
『通天閣』『新世界』 ⇒「キン肉マンII世」 復活超人オリンピック会場などで登場	

2 大阪と漫画・アニメ

大阪が舞台の漫画・アニメとは？

③サブキャラクターが、大阪出身・大阪が舞台

『ドカベン』(水島新司) キャラクター：坂田三吉(通天閣高校⇒近鉄バファローズ) 主な舞台：通天閣周辺・大阪ドーム	
『テニスの王子様』(許斐剛) キャラクター：遠山金太郎・白石蔵ノ介・小石川健二郎・千歳千里・忍足謙也・石田銀一・氏ユウジ・金色小春・財前光・遠藤オサムなど (四天王中学校) 主な舞台：四天王寺高校、四天王寺周辺	


④全く違う場所が舞台、でも出身地は大阪。

『闘虫ベダル』(渡辺航) 鳴子章吉(千葉県総北高校・浪速のスピードスター) ※誘浜と思われる場所が主人公とレース	『ダントツ』(水島新司) 浪速大二郎(光高校・大阪の星と呼ばれた)
『銀河ヘキックオフ!!』(川端隼人) 高速エリカ(浪速のスピードスター)	『はじめの一步』(森川ジョージ) 千室武士(浪速のロッキョー)

3 大阪とeスポーツ

「eスポーツ(esports)」とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う棋類、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

●eスポーツを構成する主な要素

	・ゲームソフトウェア、ハードウェア ・プレイヤー(プロゲーマー、アマチュア) ・解説・実況者(アナウンサー、ストリーマー) ・イベント運営者、施設運営者
---	---

●eスポーツの主なゲーム

- ・格闘技
- ・スポーツ (サッカー・野球など)
- ・カードゲーム、パズルゲーム
- ・マルチプレイヤーオンラインバトル
- ・リアルタイムストラテジー
- ・シューティングゲーム
- ・バトルロイヤルゲーム

※大阪に拠点を置くプロeスポーツチーム

「CYCLOPS athlete gaming」



3 大阪とeスポーツ

【大阪府内の主なゲーム会社】

『カブコン』(大阪市中央区) ⇒ストリートファイター、モンスターハンター、バイオハザード、戦国BASARAなど ⇒これらのソフトを活用した大会も世界レベルで実施されている。	『SNK』(枚田市江坂) ⇒サムライスピリッツ、ザ・キング・オブ・ファイターズ
---	---

【大阪企業とのコラボレーション】

『日清食品』(大阪市淀川区) ⇒2016年からeスポーツイベントに協賛。 ⇒若い世代へ向けてアプローチしていくためにeスポーツを活用。	『ロート製薬』(大阪市生野区) ⇒プロゲーマー選手と契約。
--	---

【リアルスポーツとのコラボ】

日本プロ野球機構 (eBaseballプロリーグ) ⇒実況(ワフルプロ野球(コナミ))を使用し、リアル同様12球団でリーグ戦を開催。 ドラフト会議を行い入団する選手を決める。 2019年、オリックスはリーグ2位(交流戦も2位)阪神はセリーグ6位。	Jリーグ(eJリーグ) ※『ウイングイレブン(コナミ)』を使用し、J1・J2の40クラブがリーグ戦を開催。クラブ代表になると、チームの一員として活動する。 2019年、ガンバ大阪はランキング10位 セレッソ大阪はランキング17位。
---	--

3 大阪とeスポーツ

大阪でのスポーツ・トピックス

- 全国都道府県対抗 e スポーツ選手権 2019 IBARAKI**
 2019年10月、茨城国体の文化プログラムの1つとして開催。3つのゲーム、少年の部と青年の部に分かれ競われた。
※大阪府代表チームは、総合成績全国4位
- スポーツ用品専門店「スポタカ」eスポーツ事業開始**
 2022年に創業100周年、次の100年に向け、また、2025年の大阪万博を盛り上げるため、大阪のスポーツ小売業としてeスポーツ事業を新設。sports2.0、SDGsという新たなムーブメントも取り込んだ事業として、アメリカ村ひいては大阪を盛り上げていく。
- 「大阪eスポーツ研究会」(スポタカなどが参加)**
 産官学と街が連携し「eスポーツを通じた街の活性化」を目的とした研究組織。
- eスポーツ大会の開催『SPOTAKA CUP』『BANPAKU杯』**
 大阪・ミナミをeスポーツのメッカに！ その理念を達成する為に開催された。

3 大阪とeスポーツ

『BANPAKU杯』(2020年2月22日~23日)

アメリカ村・BIGSTEPを中心に開催された都市型eスポーツフェス。予選も含め総勢1,500名以上が参加・来場した。



『REDEE』(2020年3月・エキスポシティにオープン)

ゲームの体験を通じて広範な知識・スキルを獲得するための施設。eスポーツ関連(プログラマー・実況者・YouTuberなど)を体験できる。



※路面沿いや商業施設での開催は、興味を持たない方も引きつける効果もある。

3 大阪とeスポーツ

しかしながら、集客イベントとしては発展途上の側面も。



店舗内でのeスポーツ大会。(BANPAKU杯)
立地や内容によっては集客イベントとしては難しい可能性もある。

eスポーツ体験イベント(ららぽーと和泉)
実際に活躍している選手も登場するイベント。選手の登壇が終わると...

2010年代に徐々に認知されてきたeスポーツ。とはいえ、一般のスポーツと比較するとまだまだ発展途上段階。今後の動向によっては、若年層を中心に更に発展する可能性もある。

※eスポーツを観光に活用するには、一般の方にも興味を持ってもらえるような仕掛けが求められる。

4 大阪※スポーツコンテンツ

【コンテンツとのコラボの一例として】



銅像・モニュメント
パネルなどの設置



ミュージアム設置・イベントの実施



ご当地マンホール



ご当地スタンプラリー

他の観光地と同じ取り組みを実施しても果たして「大阪らしい」と言えるのだろうか？

※大阪を代表する漫画・アニメコンテンツがそもそも少ない...

4 大阪※スポーツコンテンツ

【大阪でのコンテンツ活用事例】

・新世界※キン肉マン

2012年新世界・通天閣100周年を迎えるにあたり、キン肉マンがシンボルキャラクターに就任、コラボレーション。地元出身の作者「ゆでたまご」もイベント参加するなど、様々なコラボレーションイベントが開催された。



通天閣の2階には、アーカイブコーナーが設置。

泉佐野市には「ゆでたまご」監督のゆるキャラ「イヌナギス」も活躍中！

※コンテンツとのコラボにおいては、**地元の皆さまに親しまれるような取り組みが重要。**



4 大阪※スポーツコンテンツ

【大阪でのコンテンツ活用事例】

・ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

『ユニバーサル・クールジャパン』(2015年~)

⇒日本発の様々なコンテンツとのコラボレーションを毎年実施。

特に2015年からは、複数のコンテンツとのコラボが同時期に実施。

(例) 名探偵コナン、ルパン三世、ゴジラ、進撃の巨人、モンスターハンター、エヴァンゲリオン、美少女戦士セーラームーン、etc.

※コンテンツの世界を擬似体験出来るアトラクションが特徴的。



4 大阪※スポーツコンテンツ

【大阪でのコンテンツ活用事例】

・iVS PARK(エキスポシティ)

⇒大手ゲームメーカー「バンダイナムコ」が運営。

性別や運動神経にかかわらずスポーツを気軽に思い切り楽しめるバラエティスポーツ施設

(例) 猛獣から逃げ切る短距離走、カーリング、アーチェリー、サッカー、ピッチング、トスバッチング、ポッチャなど
※実際にeスポーツの競技になっているコンテンツも体験できる。



『HADO』(ハドロー)
体を動かして技を発動させ、フィールドを自由に動き回り、味方と連携して楽しむARテニススポーツ。
(写真は前述のBANPAKU杯より)



※eスポーツと近い？
「初心者でも気兼ねなく楽しめるコンテンツ」

4 スポーツコンテンツ×大阪

- ・大阪らしい取り組みを
- ・地元の皆さまにも親しまれるような取り組み
- ・コンテンツの世界を擬似体験できる。
- ・初心者でも気兼ね無く楽しめる



大阪・関西 コンテンツゲートウェイ(案)

【今ある既存コンテンツを有効に活用】
【コンテンツの世界に触れられる体験型イベント】



4 スポーツコンテンツ×大阪



大阪・関西コンテンツゲートウェイ(案)

『あなた』vs『大阪キャラクター連合』

- ・都市型スポーツフェス。
- ・大阪ゆかりのスポーツキャラクターとVR上で対決ができる！！
- ・誰でも参加可能(観光客のみならず、地元の方も大歓迎。)



4 スポーツコンテンツ×大阪

【大阪らしい取り組みとは?】



大阪・関西コンテンツゲートウェイ(案)

『あなた』と『大阪キャラクター』を繋ぐ情報発信施設
主要空港(関西国際空港・伊丹空港)
JR主要駅(新大阪駅・大阪駅・梅田駅など)



※ここでどのキャラクターと出会えるのか(勝負したいか)、事前に情報収集した上で、府内各地へ出発してもらいます。



4 スポーツコンテンツ×大阪



主要観光地にVRスポットを設置
大規模なスペースがなくても設置可能

【大阪ドーム】
オリックスサインと勝負!

【なんばパークス】
あぶさんから三振を取れ!

【新世界・通天閣】
坂田三吉の通天閣打法を
打ち破れ!

【四天王寺】
四天王寺アツツと
二対決!

【天王寺公園】
有名選手と短距離走対決!

【東大阪市花園ラグビー場】
強敵からトライを決めろ!

『あなた』vs『大阪キャラクター連合』

・大阪府内の主要観光地に試合スポットが点在

5 今後の課題と展望

【大阪に関するコンテンツの集約】

- ・漫画、アニメにおける大阪出身者のリストアップ化
(スポーツに限らず様々なジャンルの作品内からピックアップ)
- ・大阪府内マップの作成

【大阪・関西コンテンツゲートウェイ】

- ・地元企業や地域が参加しやすい仕組み作り
- ・VRシステムをどう構築していくか。
- ・スポーツ以外のジャンルでも応用できるか。
- ・大阪が舞台になれるよう、ロケーションサポートの充実化

大阪を訪れる皆さまが『おもしろいやん!大阪!』と
思っていたけるよう、引き続き、様々なコンテンツを
活用した観光施策を構築してまいります。



大阪は関西の漫画・アニメのゲートウェイへ。



2014年に開業させるを得ながら、りんくうタウン・
ケルセラン・シブメのまぜたり
大阪のどこかで復活できますように...

ご清聴ありがとうございました。

TO BE CONTINUED.

